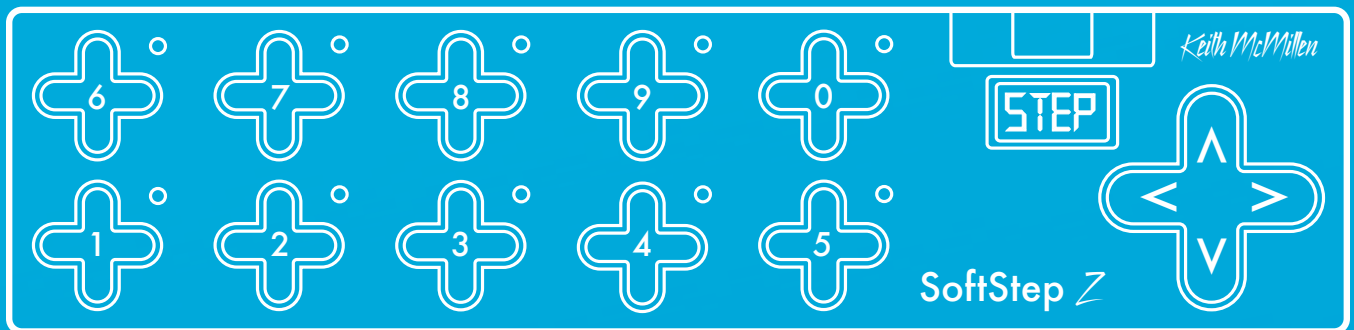


Keith McMillen

INSTRUMENTS



SoftStep

Reference Manual

SoftStep

Version 2.01

Edited: April 1, 2014

Keith McMillen
INSTRUMENTS

キース・マクミレン、コナー・レイシー、チャック・カールソン、エヴァン・アダムス、エヴァン・ボグニア、ダイアン・ダグラス、トム・ファーガソン、ジェイ・フィールズ、マット・ヘティッチ、デイヴィッド・ヒシヌマ、サラ・ハウ、ダニエル・マカナルティ、デニス・サピュテリ、ダスティン・シュルツ、バリー・スルー、ニック・ワン、カーソン・ウィットレー、スティーヴ・ライトにより開発されました。

この取扱説明書は、カーソン・ウィットレーが作成しました。

©2007-2014 KeithMcMillen Instrumentsは、Kesumo LLCの完全子会社です。無断複写・転載を禁止します。

本書のいかなる部分の複写やあらゆる方法による配布は、その目的に関わらず、著作権保持者の文書による許可なしに行うことを禁じます。

この取扱説明書の内容は情報提供の用途のみを想定したものであり、予告なしに変更されることがあります。また、Keith McMillen Instruments社はその内容に責任を負うものではありません。本書に掲載される情報については、正確を期すためのあらゆる努力が払われていますが、文書の質や適合性、正確さについては、明示されているか否かに関わらず、保証の限りではありません。

Keith McMillen Instruments社は、本書の内容および関連する製品の内容を、特定の人物や組織への事前の報告なしに変更する権利を保有します。また、Keith McMillen Instruments社は、本製品および本書の使用もしくは使用不能の状況に起因するいかなる種類の損害に関しても、たとえそのような損害が起こる可能性が既知のものであったとしても、責任を負いかねます。

本文書に含まれる製品およびブランドの名称は、それらを特定する目的のみに使用されたものです。

Keith McMillen Instruments社およびそのロゴ、SoftStepの名称およびそのロゴは、Kesumo LLCの登録商標です。

Apple、Finder、GarageBand、Logic、Mac、MacBook、Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、アメリカ合衆国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。Windowsは、アメリカ合衆国およびその他の国で登録されたMicrosoft Corporationの商標です。

Intelは、アメリカ合衆国およびその他の国で登録されたIntel Corporationおよびその子会社の商標です。

その他の製品名および会社名は全て、それぞれの所有者による商標または登録商標です。

本書で使用されたその他の会社名や製品名、商標およびブランド名は、それぞれの所有者の登録資産です。

目次

ようこそ

ご質問やご感想をお寄せください!	5
1.0 ご使用の前に	8
1.1 SoftStepの同梱品	8
1.2 MIDI Expanderの同梱品	8
1.3 動作環境	8
1.4 取扱説明書の表記について	9
2.0 はじめに	11
2.1 SoftStep本体	11
2.1.1 本体の概要	11
2.1.2 仕様	12
2.2 MIDI Expander本体	13
2.2.1 本体の概要	13
2.2.2 仕様	14
2.3 SoftStepの接続	15
2.3.1 コンピューターとの接続	15
2.3.2 iPadとの接続	16
2.3.3 MIDI機器との接続	17
2.3.4 MIDI機器およびコンピューターとの接続	18
2.4 ファクトリー・プリセットの概要	19
2.4.1 プリセット	19
2.4.2 プリセットのカスタマイズ	20

3.0	ベーシック・エディタ	22
3.1	メイン画面	22
3.1.1	キーの設定	22
3.1.2	その他の緒設定	23
3.1.3	プリセット	24
3.1.4	ナブ (Nav) パッド	25
3.1.5	メニュー・バーのオプション	25
3.1.6	メッセージ・タイプ	26
3.1.7	ディスプレイ表示	29
3.1.8	ファクトリー・プリセット	29
4.0	アドバンスド・エディタ	32
4.1	メイン画面の概要	32
4.1.1	キー・ボックス	33
4.1.2	ディスプレイ・ネーム・ボックス	33
4.1.3	プリセット・セクション	33
4.2	キー・モジュレーション画面の概要	35
4.2.1	概要	35
4.2.2	モッドライン	35
4.2.3	LEDおよびディスプレイの設定	39
4.2.4	カウンター	40
4.2.5	モッドラインの追加と削除	41
4.2.6	ナブ・パッド・モジュレーション画面	41
4.3	セットリスト画面	42
4.4	設定 (Settings) 画面	43
4.4.1	概要	43

4.4.2	グローバル(Global) タブ	43
4.4.3	キーズ(Keys) タブ	44
4.4.4	入出力(I/O) タブ	45
4.4.5	ペダル(Pedal) タブ	47
4.5	メニュー・バーのオプション	48
4.6	ホステッドとスタンドアローンの違い	50
4.7	SoftStepのポート	51
5.0	付録	54
5.1	コントロール・ソース	54
5.2	メッセージ・タイプ(アドバンスト・エディタ)	60
5.3	テーブル	64
5.4	初期値(Init)	65
5.5	ディスプレイ・モード	65
5.6	LEDのモード	66
5.7	SoftStepの外部コントロール	67
5.7.1	SoftStepのLEDをコントロールする	67
5.7.2	SoftStepのディスプレイをコントロールする	68
5.7.3	プログラム・チェンジ信号でプリセットを変更する	68
5.7.4	MIDI Expanderを使う	69
5.8	ファクトリー・プリセット・ガイド(アドバンスト・エディタ)	70
5.9	MIDIノートと音名の対照表	74
5.10	SoftStepバージョン1.21からの変更点	75
5.11	トラブルシューティング	77
5.12	よくある質問	80
5.13	安全のために	89

Welcome

SoftStep2 取扱説明書へようこそ！ この説明書をひも解くだけでも、SoftStep をマスターするための大きな一歩になります！

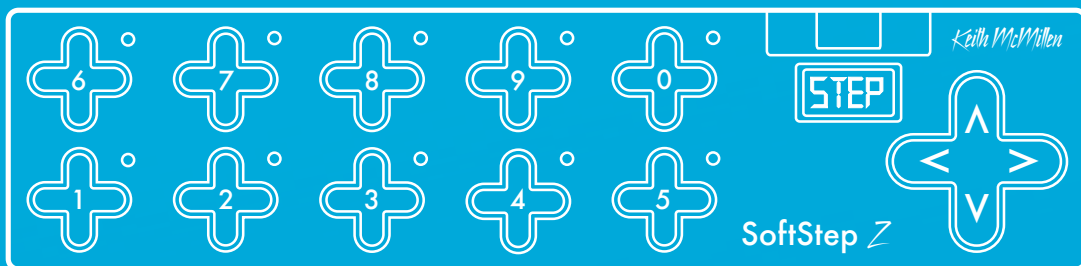
この説明書は、SoftStep 本体および SoftStep ソフトウェアの使用に際して、役に立つ詳細な情報をご提供するのを目的としています。

ご質問やご感想をお寄せください！

SoftStep の本体やソフトウェアの使用に関するご質問やご感想は、こちらにお寄せください：

テクニカル・サポート：<https://pearlgakki.zendesk.com/hc/ja>

Before You Begin



1.0 ご使用の前に

この章では、SoftStep の世界に足を踏み入れる前に知っておくべきことについて解説しています。利用できる機能がたくさんあって圧倒されるかもしれませんが、ご心配なく。SoftStep は高度なカスタマイズが可能なコントローラーで、カスタマイズのためには複雑な操作が必要です。何事も同じですが、練習を重ねれば重ねるほど、上手く使いこなせるようになります。

1.1 SoftStep の同梱品

SoftStep には、以下のものが同梱されています（カッコ内の数字は品物の数量です）。

- (1) SoftStep 本体
- (1) USB A / USB B 変換ケーブル (3' = 約 4.5m)
- (1) SoftStep 保護ケース
- (1) エクスプレッション・ペダル用 3.5mm (1/8") / 1/4" 変換アダプター

1.2 MIDI Expander(別売) の同梱品

KMI MIDI Expander には、以下のものが同梱されています。

- (1) MIDI Expander 本体
- (1) USB 電源 (5V 500mA) (接続コンセント用アダプターを含む)
- (1) USB A / USB B 変換ケーブル (Expander と USB 電源の接続用)
- (1) USB A / mini-USB B 変換ケーブル (Expander と SoftStep の接続用)

1.3 動作環境

ハードウェア

SoftStep はクラス・コンプライアントの USB 機器で、MIDI をサポートするあらゆるハードウェアやソフトウェアと一緒に使用できます。

SoftStep 本体は、(USB と MIDI をネイティブでサポートする) あらゆる OS と組み合わせて使用できます。専用のエディタが動作しないコンピューターでも、USB2.0 と MIDI さえサポートしていれば、接続して使用できる可能性があります (ただし、この場合はプリセットのエディットを別のコンピューターで行う必要があります)。

ソフトウェア

SoftStep エディタは、SoftStep 本体よりも動作環境の制約が大きくなります。

Mac


- Mac OS 10.5 またはそれ以降
- Intel Core 2 Duo 2.0GHz またはそれ以上
- 約 100MB のディスク空き容量
- SoftStep 1 または SoftStep 2 フット・コントローラー（どちらもソフトウェア・バージョン 2.0 と完全互換です）。

Windows

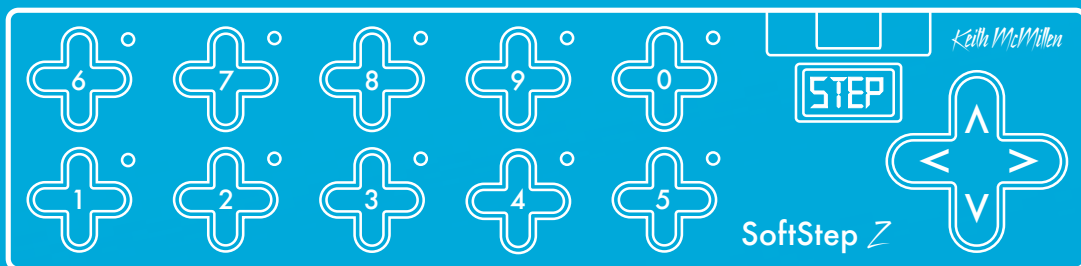
- Windows XP、Windows7 または Windows8（Windows Vista はサポート対象外です）
- Intel Core 2 またはそれ以上のプロセッサ
- 約 100MB のディスク空き容量

1.4 取扱説明書の表記について

本書の表記、とくに、お使いのプラットフォームに関する表記について、以下の点に注意してください：

-  は、重要な注意点や情報を意味する、注意喚起のシンボルです。
- SoftStep 本体を示す図は全て、SoftStep 2 の本体に基づいています。ただし、特に断りのない限り、SoftStep 1 についても同様です。
- 下線付きの青色で表記された文字列は、外部ウェブサイトへのリンクです。クリックすると、コンピュータが指定するブラウザがリンク先のウェブページを開きます。下線付きの黒の太字で表記された文字列は、本書内の別のセクションへのリンクです。クリックすると、リンク先のセクションに移動します。リンクされていない重要な用語は、単純な太字で表記されています。
- スクリーンショットは、Mac 版の SoftStep エディタのものです。
- 本書では、一貫して「ポート」という用語を使用しています。「ポート」は物理的なもの（たとえば USB ポート）を指す場合も、（コンピュータやタブレット上で MIDI データを送受信するオーディオ・ソフトウェア）の仮想の MIDI ポートやバスを指す場合もあります。
- 仮想の MIDI「ポート」または「バス」を指す場合には、「ポート」という用語を使います。
- 本書に出てくる「TRS ケーブル」や「TS ケーブル」はそれぞれ、一般では「ステレオ・ケーブル」や「モノ・ケーブル」と呼ばれているものです。
- 長さの単位で、二重引用符（"）はインチ、一重引用符（'）はフィートをそれぞれ表します。たとえば「1/4"」は 4 分の 1 インチ、「3'」は 3 フィートです。
- 本書で言う「MIDI ケーブル」は、5 ピンの DIN 端子を持つケーブルを意味します。

Getting Started



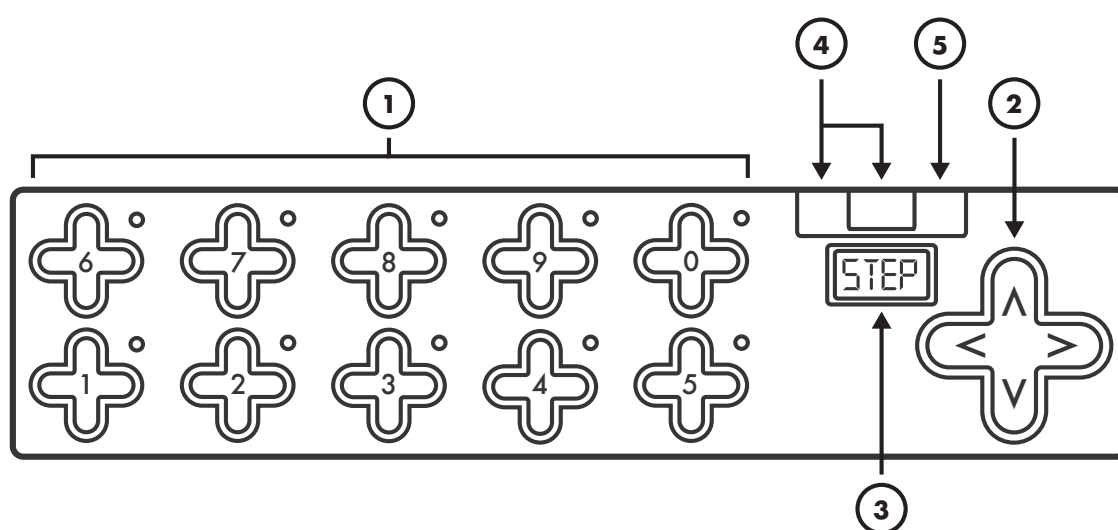
2.0 はじめに

この章には、SoftStep を使い始めるにあたって役立つ情報が収録されています。具体的には、SoftStep 本体と MIDI Expander 本体の紹介と、SoftStep を外の世界と接続する方法についての解説です。

2.1 SoftStep 本体

まずは SoftStep 本体です！

2.1.1 本体の概要



(1) キー

この部分でほとんどの操作を行います。これらのキーを踏むと、それぞれに割り当てた機能が動作します。それぞれのキーには、緑や赤に光る LED が対応しており（キーの右上にあります）、視覚的にも動作を確認できます。

(2) ナブ・パッド

「ナビゲーション・パッド」の短縮形で、左右の部分を押すとプリセットが切り替わります。上下の部分には、プログラムで様々な機能を割り当てることができます。

(3) ディスプレイ

動作状況を視覚的に確認するのに使います。SoftStep のディスプレイには、呼出し中のプリセットや動作中のキー、リアルタイムのパラメーター値が表示されます。

(4) USB ポート

SoftStep を MIDI の環境に接続します。「Expand」（mini-USB）ポートには KMI MIDI Expander、メインの USB ポート（大きな方）にはコンピューターやタブレットをそれぞれ接続します。

(5) ペダル入力

SoftStep にエクспRESSION・ペダルを接続するためのポートで、接続には 3.5mm (1/8") TRS ケーブルが必要です。多くのエクспRESSION・ペダルはステレオの 1/4" 端子が付いているので、SoftStep には接続用の変換アダプター (1/4" TRS メス／ 3.5mm TRS オス) が同梱されています。

2.1.2 仕様

主要データ：

寸法および重量：

寸法：4.1" x 17.7" x 0.94" (105mm x 450mm x 24mm)


重量：約 1.3lbs (0.59kg)

電源電圧／容量

SoftStep は USB ポートまたは Expand ポートから電源を供給できます。両方の端子から同時に電源を供給しないでください。本体が損傷する恐れがあります。

電圧：5V

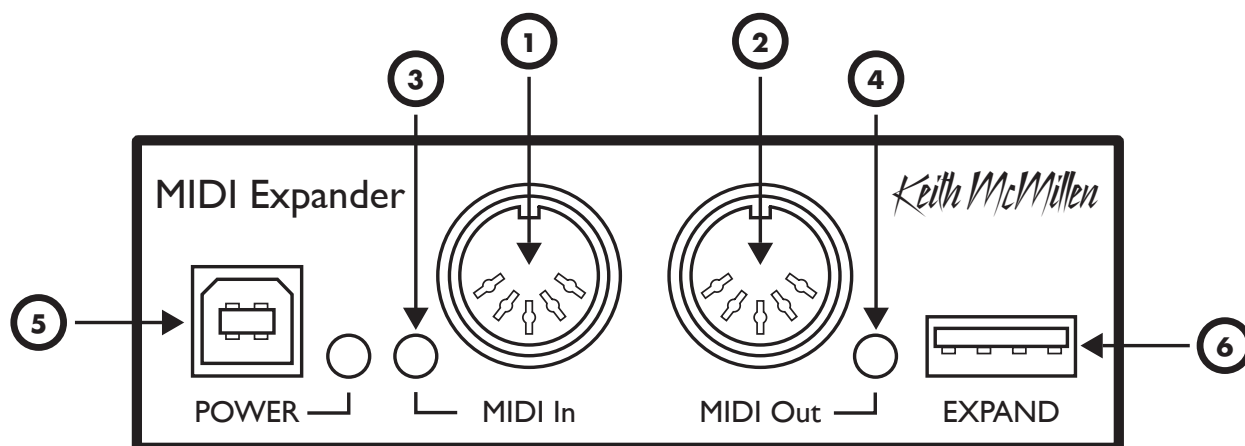
電流：SoftStep 1＝約 105mA、SoftStep 2＝約 140mA

 注意：SoftStep 本体内に、ユーザー側で調節できる部分はありません。中を開けた場合には保証が無効になります。

2.2 MIDI Expander 本体

KMI MIDI Expander は、SoftStep を MIDI ケーブルで外部 MIDI 機器に接続するための、別売のアクセサリです。

2.2.1 本体の概要



(1) MIDI In ポート

Expander の MIDI 入力ポートです、入力された MIDI 信号は SoftStep に送られ、さらには USB 接続されたコンピューターやタブレットに送られます——MIDI インターフェースと同様の動作になります。

Expander の MIDI In に送る MIDI 信号で、SoftStep の LED やディスプレイ、プリセットをコントロールすることもできます。

(2) MIDI Out ポート

Expander の MIDI 出力ポートです。SoftStep（そして接続されたコンピューター）から送信された MIDI 信号は、このポートから外部 MIDI 機器に送られます。

(3) 入力 LED インジケーター

MIDI In ポートが MIDI 信号を受信すると点滅します。

(4) 出力 LED インジケーター

MIDI Out ポートが MIDI 信号を送信すると点滅します。


(5) POWER ポート

MIDI Expander と、Expander に接続された SoftStep に電源を供給するのに使用します。USB 電源アダプター（1 個は Expander に同梱）をコンセントに接続してから、USB A / B 変換ケーブル（同じく Expander に同梱）で電源アダプターと Expander の POWER ポートを接続します。

⚠ 注意：EXPAND ポートに何も接続されていない場合は、電源を入れると入力と出力の LED が両方とも点灯します。ただし、これは単に電源が入ったことを示すだけで、MIDI 信号が送受信されたわけではありません。このポートに KMI コントローラーを接続すると、LED は消灯し、通常の動作に戻ります。

(6) Expand ポート

MIDI Expander を SoftStep に接続するのに使います。SoftStep の Expand ポートと Expander の EXPAND ポートを、mini-USB ケーブルで接続してください。

 注意：EXPAND ポートには、KMI 社製の MIDI コントローラーだけを接続してください。それ以外の USB MIDI コントローラーや USB ハブは正常に動作しません。

2.2.2 仕様

寸法および重量：

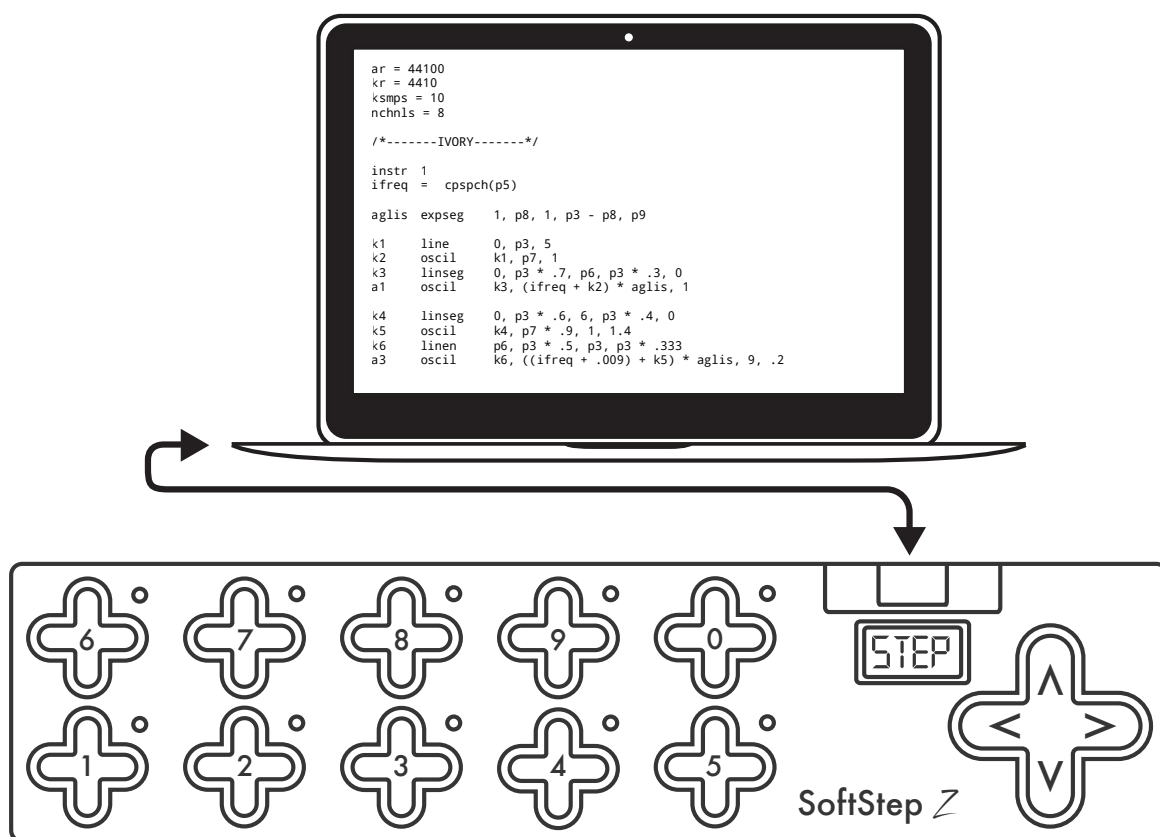
寸法：4" x 1.25" x 1.25" (102mm x 32mm x 32mm)

重量：2.5 oz, (72g)

2.3 SoftStep の接続

SoftStep は USB 経由でコンピューターやタブレットと、MIDI ケーブルで外部 MIDI ハードウェアと（KMI MIDI Expander が必要です）それぞれ通信できます。どちらの方法も、いずれか片方でも両方同時でも使用できます。

2.3.1 コンピュータとの接続

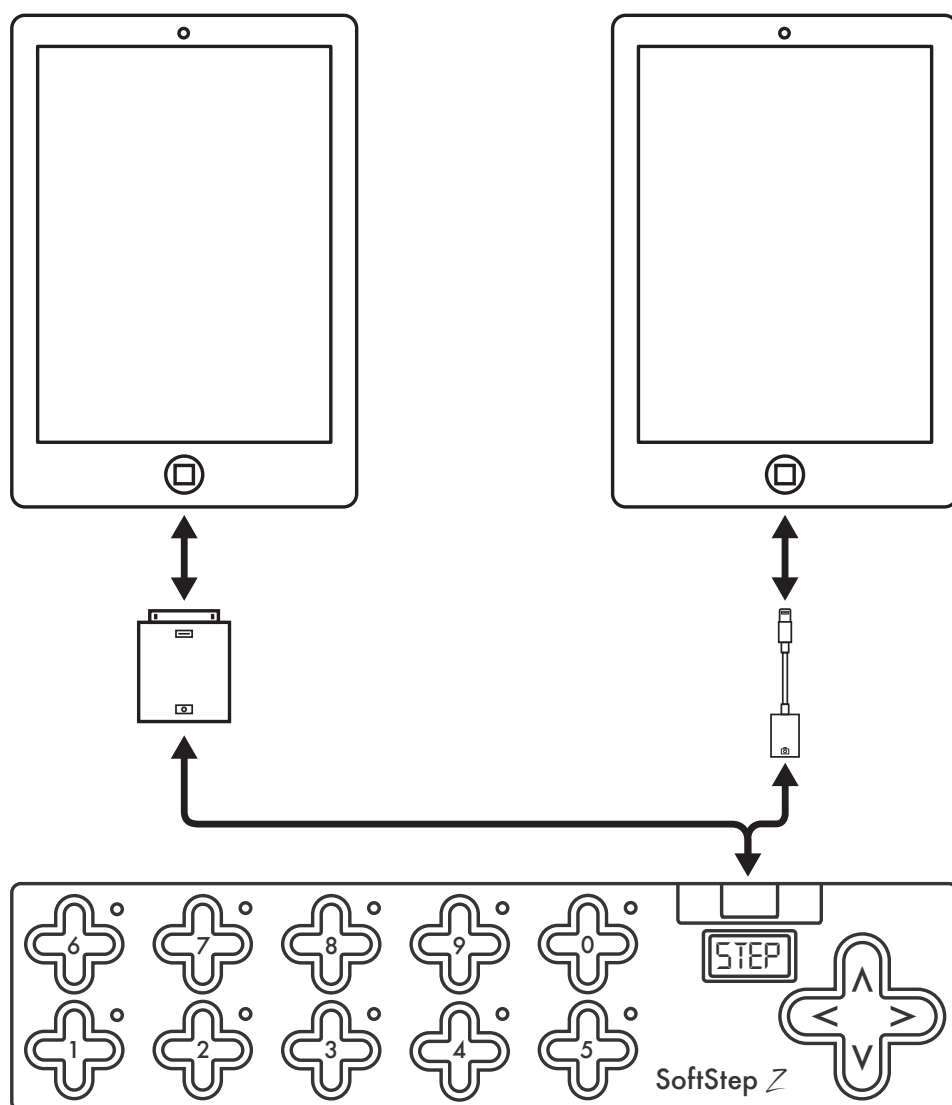


SoftStep をコンピューターと接続するには、3 つのものがが必要です：SoftStep 本体、コンピューター、そして USB A / USB B 変換ケーブル（一般的な USB ケーブル）です。

SoftStep のメインの USB ポートと、コンピューターの USB 2.0（またはそれ以降の）ポートを接続すれば、SoftStep の電源はコンピューターから供給されます。

⚠ 参考：SoftStep は、USB ハブ経由でもコンピューターと接続できます。ただし、ハブはバス・パワー・タイプではなく、外部から電源を供給するタイプのものをお使いください。バス・パワー・タイプのハブでは、SoftStep が正常に動作するための電力を供給できない場合があります。

2.3.2 iPad との接続



SoftStep と iPad との接続方法は、コンピュータに接続するのと似ていますが、もうひとつのパーツが必要になります。

それは Apple の Lightning to USB Camera Adapter (Lightning コネクターを持つ iPad の場合) または Apple iPad Camera Connection Kit (以前の 30 ピン・コネクターを持つ iPad の場合) で、これらを介して SoftStep と iPad を USB 接続します。

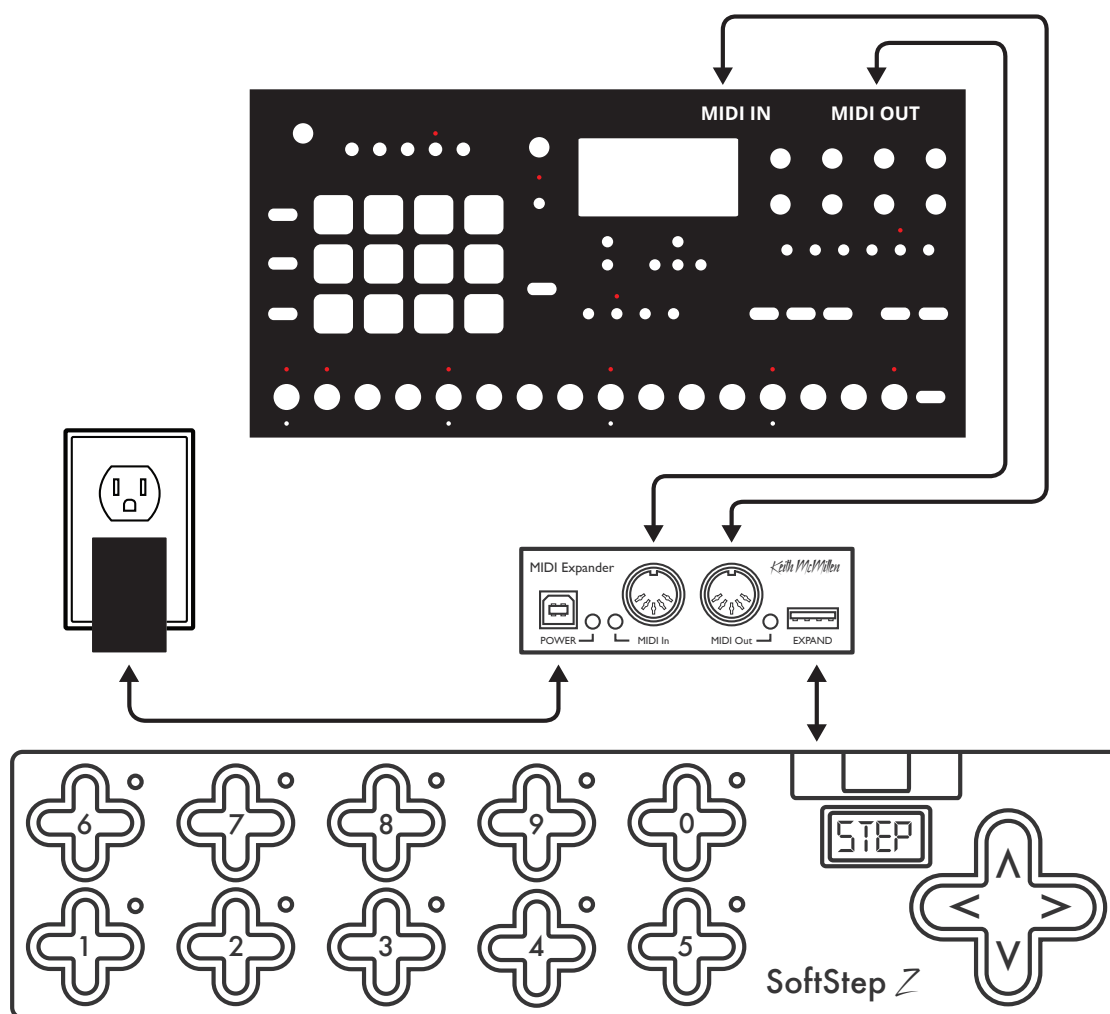
上記のアダプターを iPad に接続し、SoftStep のメイン USB ポートとアダプターを USB A / USB B 変換ケーブルでつなげば、準備完了です。

⚠ 参考： iPad のモデルによっては、単独では SoftStep に十分な電源を供給できない場合があります。

その場合は、外部の USB 電源アダプター (5V 500mA) を使用してください。

SoftStep の mini-USB ポート (Expand ポート) に電源アダプターを接続して、アダプターをコンセントに接続します。

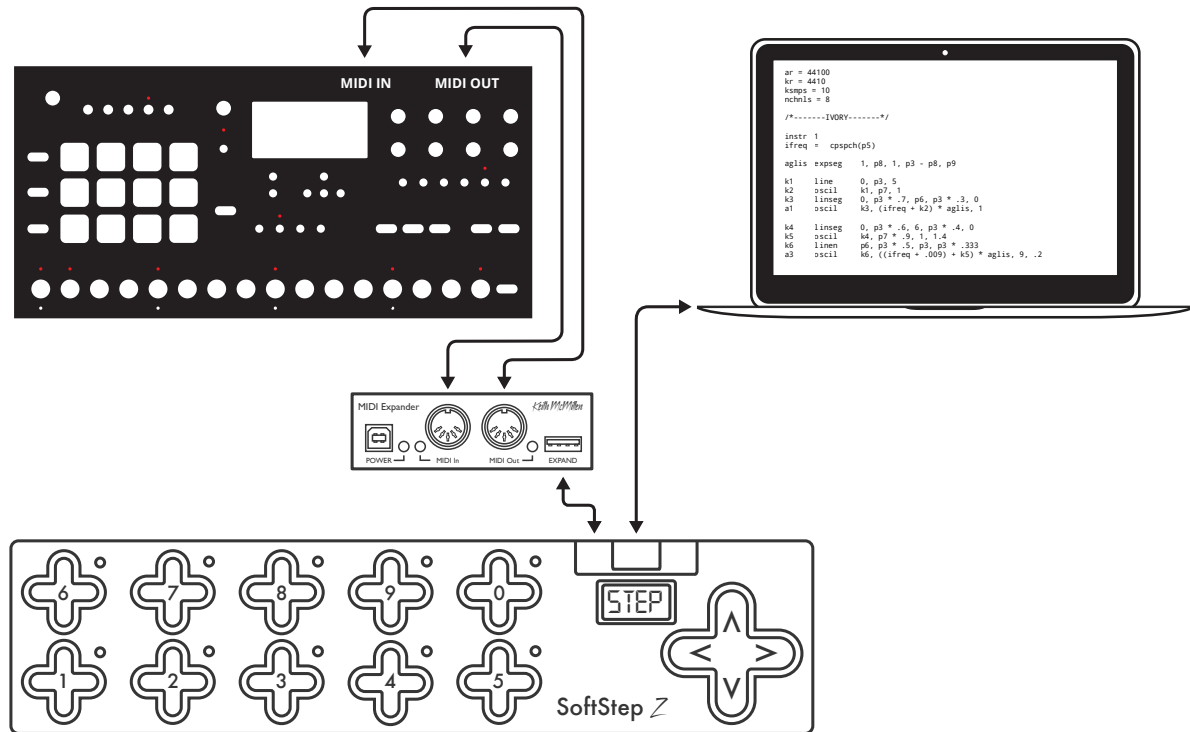
2.3.3 MIDI 機器との接続



MIDI ケーブルで MIDI 機器と接続する場合には、KMI MIDI Expander が必要になります。

1. SoftStep の Expand ポートと Expander の EXPAND ポートを、USB A / mini-USB B 変換ケーブルで接続します。
2. Expander の POWER ポートを、USB A / USB B ケーブルで USB 電源アダプター（Expander に同梱）と接続します。
3. 電源アダプターをコンセントに接続します。SoftStep と Expander の両方の電源がオンになります。
4. MIDI ケーブルで Expander の MIDI OUT と外部 MIDI 機器の MIDI IN を接続します。SoftStep に MIDI 信号を送る必要がある場合には、もう 1 本の MIDI ケーブルで Expander の MIDI IN と外部機器の MIDI OUT を接続します。

2.3.4 MIDI 機器およびコンピューターとの接続



SoftStep は、コンピューターと外部 MIDI 機器の両方に同時に接続することもできます（KMI MIDI Expander が必要です）。

1. SoftStep の Expand ポートと Expander の EXPAND ポートを、USB A / mini-USB B ケーブルで接続します。
2. SoftStep のメイン USB ポートとコンピューターを、USB A / USB B ケーブルで接続します。これで SoftStep と MIDI Expander の電源が入ります。
3. Expander の MIDI OUT と外部 MIDI 機器の MIDI IN を MIDI ケーブルで接続します。

2.4 ファクトリー・プリセットの概要

SoftStep には、箱から出してすぐに使えるようにいくつかのファクトリー・プリセットが保存されています。その中のいくつかは、ごく基本的な機能（プログラム・チェンジや2つのプログラムの切り替え、MIDI ノート、プレッシャー・データの送信）が使えるだけのものですが、ソフトウェアや他のハードウェアと組み合わせるための設定例としてのものもあります。

ここでは、ファクトリー・プリセットの簡単な概要について解説しています。個々のファクトリー・プリセットについてのより詳しい情報は、付録のファクトリー・プリセット・ガイドの項を参照してください。

2.4.1 プリセット

ナブ・パッドの左右のキーを使って、プリセットを切り替えます。

ファクトリー・プリセットは全て MIDI チャンネル 1 で送信され、出力は USB と MIDI Expander（接続されている場合）の両方に設定されています。

SoftStep 本体には、出荷時に以下のプリセットが保存されています。

プログラム・チェンジ (PRGM)

個々のキーを押すと、プログラム・チェンジ・メッセージが送信されます。ハブ・パッドの上下のキーを押すと、プログラム・ナンバーが 10 単位で変化します。

トグル (TOGL)

個々のキーを押すと、CC メッセージ (CC20 ~ 29) が切り替わります。キーを一度押すとトグルがオンになり、もう一度押すとオフになります。

ノート (NOTE)

個々のキーを押すと、MIDI ノート (60 ~ 69) が送信されます。キーを押すとノート・オン、離すとノート・オフのメッセージがそれぞれ送信されます。

プレッシャー (PRES)

個々のキーを押すと、そのキーのプレッシャーの量が CC メッセージ (CC110 ~ 119) として送信されます。数値は強く押せば大きく、弱く押せば小さくなります。

Eleven Rack コントロール (11RK)

Avid 社の Eleven Rack プロセッサーと組み合わせて使用するためのプリセットです。

Eleven Rack と接続するには、MIDI Expander が必要です。上段のキーはエフェクトのオン／オフ、下段のキーはエフェクトのパラメーターを変化させるのにそれぞれ使用します。

Line6 Pod コントロール (POD)

Pod を含む、Line6 社製の多くのプロセッサーと組み合わせて使用するためのプリセットです。上段のキーはエフェクトのオン／オフ、下段のキーはエフェクトのパラメーターを変化させるのにそれぞれ使用します。

Ableton Live コントロール (LIVE)

Ableton Live に特化した当社のスクリプトと組み合わせるためのプリセットです。上段のキーはトランスポート、下段のキーはトラックの音量をそれぞれコントロールします。

このプリセットのインストール方法については、SoftStep 2.0 のソフトウェア・パッケージの「Extras」フォルダー内のファイルを参照してください。

2.4.2 プリセットのカスタマイズ

ファクトリー・プリセットは基本的かつ一般的な機能を網羅していますが、より高度に特化された動作をさせたいユーザーのために、SoftStep のプリセットは、SoftStep ベーシック・エディタまたは SoftStep アドバンスド・エディタを使用して根本からカスタマイズできるようになっています。

ベーシック・エディタでは、単独の機能を個々のキーに割り振ったプリセットを 10 個まで作成できるので、ほとんどのユーザーの要求に応えることができるでしょう。より複雑な動作が必要な場合は、個々のキーに複数の機能を割り振ったプリセットを 16 個まで作成できるアドバンスド・エディタを使用してください。

Basic Editor

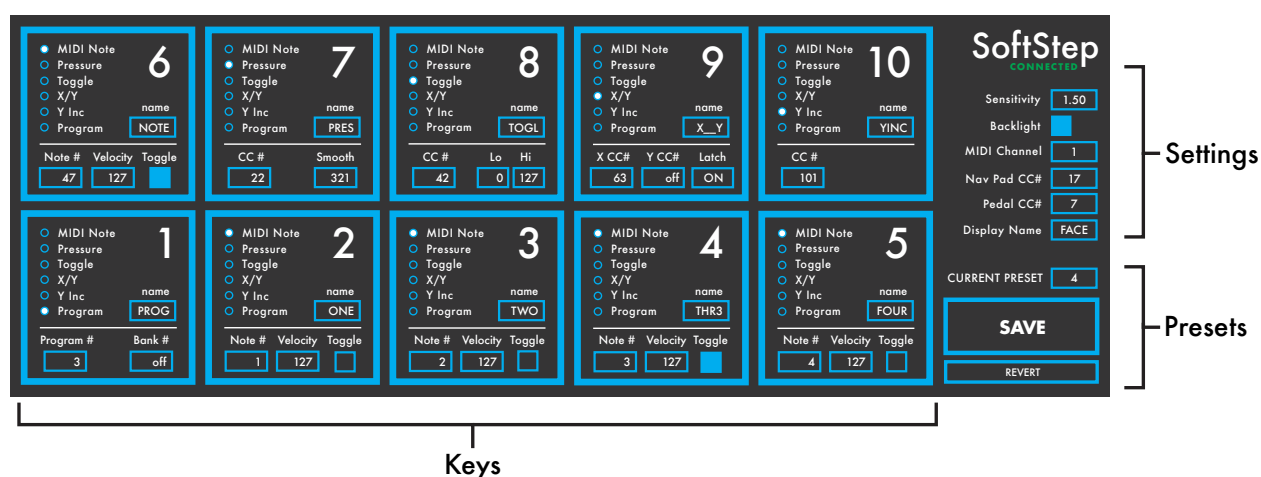


3.0 ベーシックエディター

SoftStep ベーシック・エディタは、手早くシンプルな方法で SoftStep の機能を利用したい場合（よくあることです）にプリセットをカスタマイズするための素晴らしい手段です。ベーシック・エディタでは、個々のキーに単独の機能を割り当てたプリセットが 10 種類利用できます。キーには、MIDI ノートの出力や、CC の切り替え、プレッシャー・データの出力、X/Y ロケーション・データの送信、プログラム・チェンジ・メッセージの送信、垂直スライダーのような動作といった、もっとも一般的な要求に応える機能を割り当てることができます。

3.1 メインウィンドウ

ベーシック・エディタにはメイン画面しかありません。ここで全ての設定を行います（ただし、上部のメニュー・バーからもいくつかの設定ができます）。以下がメイン画面です：



3.1.1 キーの設定

このエリアで SoftStep のキーの機能を設定します。

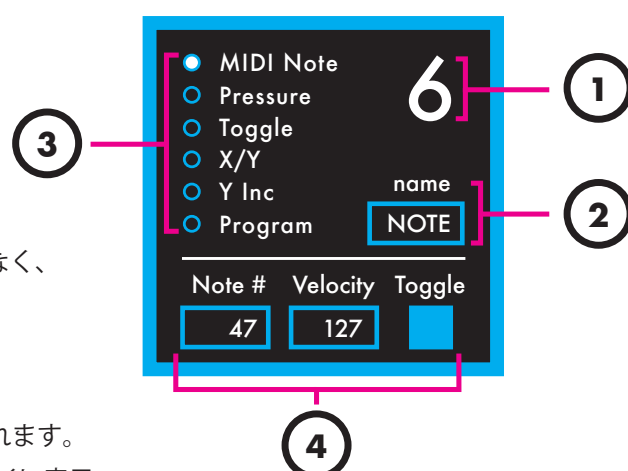
キーの並び方は SoftStep 本体と同じで、個々のキーの画面は右図のようになります。

(1) キー・ナンバー

SoftStep のキーの番号です。何か特別なものではなく、ただの番号です。

(2) キー・ネーム・ボックス

ここに最大 4 文字入力して、キーに名前が付けられます。この名前は、状況に応じて SoftStep のディスプレイに表示されます。メッセージのタイプによるディスプレイ表示の詳細は、ディスプレイ表示の項を参照してください。



(3) メッセージ・タイプ・セクター

6つのラジオ・ボタンのうち1つをクリックして、そのキーに割り当てるメッセージ・タイプすなわち、キーを押した時の動作を設定します。選択中のメッセージ・タイプのボタンをクリックすると、対応するキーの動作を停止することができます。動作を停止したキーを押しても、メッセージは送信されません。メッセージ・タイプを選択すると、そのキーの動作に関する細かいパラメーターが表示されます。メッセージ・タイプによってパラメーターは異なります。メッセージ・タイプとパラメーターの関係についての詳細は、メッセージの種類（ベーシック・エディタ）の項を参照してください。

(4) メッセージ・タイプ・パラメーター

選択したメッセージ・タイプに対して設定可能な、いくつかのパラメーターを選択します。キーの動作についての、さらに細かい設定が可能です。

たとえば MIDI ノートを選択すると、ノート・ナンバーとベロシティ、キーを押した時に切り替えを行うかどうかを設定できます。X/Y を選択すると、X と Y の両方のパラメーターの CC ナンバーと、キーを押した時に CC がラッチされる（押した後で離しても維持される）かどうかを設定できます。

メッセージ・タイプとパラメーターのより詳細な関係については、メッセージの種類（ベーシック・エディタ）の項を参照してください。

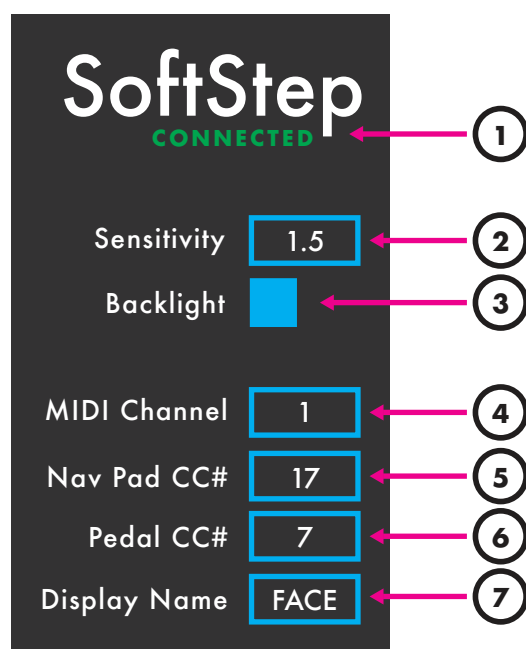
3.1.2 その他の諸設定

(1) 接続（Connected）インジケーター

エディタと SoftStep 本体の接続が確立されたかどうかを表示します。SoftStep 本体のファームウェアのアップデートや本体へのプリセットの送信、本体の設定の変更を行うには、エディタと本体の接続が確立されている必要があります。

(2) 感度（Sensitivity）

SoftStep の感度を調節します。感度は大きな値ほど高く、小さな値ほど低くなります。数学的に言えば、センサーのデータが設定値で乗算されます。



(3) バックライト (Backlight)

SoftStep のバックライトのオン／オフを設定します。チェックボックスにチェックを入れるとオン、チェックを外すとオフになります。

(4) MIDI チャンネル

SoftStep が MIDI データを送信するチャンネルを設定します。

●設定範囲：1 ～ 16

●初期値：1

(5) ナブ・パッド (Nav Pad) CC#

ナブ・パッドが送信する CC ナンバーを設定します。ベーシック・エディタにおけるナブ・パッドの機能の詳細については、ナブ (Nav) パッドの項を参照してください。

(6) ペダル (Pedal) CC#

接続されたエクスプレッション・ペダルが送信する MIDI データの CC ナンバーを設定します。エクスプレッション・ペダルは、ベーシック・エディタの全てのプリセットで機能するように設定されています。

(7) ディスプレイ・ネーム (Display Name)

選択中のプリセットがディスプレイに表示される名前を設定します。SoftStep でプリセットを切り替えた時に表示される名前なので、個々のプリセットに特有のわかりやすい名前に設定するのが良いでしょう。最大 4 文字までの名前が設定できます。

3.1.3 プリセット

(1) 選択中のプリセット (Current Preset)

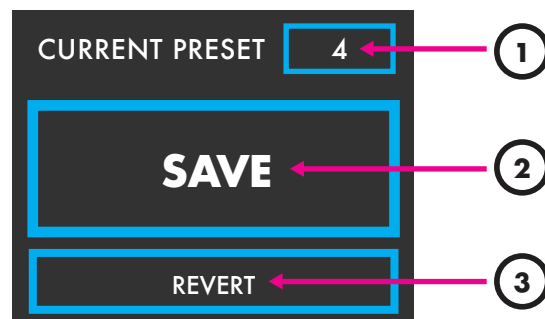
エディットするプリセットを選択します。ベーシックエディタでは、1 ～ 10 までのプリセットがエディットできます。

(2) セーブ (SAVE) ボタン

選択中のプリセットに加えた全ての変更を保存します。保存されていない変更がある場合には、このセーブ・ボタンが赤色に点灯します。

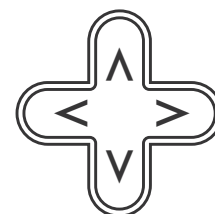
(3) リバート (REVERT) ボタン

プリセットを、変更を加える前の状態に戻します。保存されていない変更は失われます。



3.1.4 ナブ (Nav) パッド

ナブ・パッドの動作をベーシック・エディタでカスタマイズすることはできません (CC ナンバーを除く)。それぞれのプリセットでは、ナブ・パッドが Y Inc に設定されたような形になっています。つまり、ナブ・パッドの上を押すと CC の値が (0 ~ 127 の範囲で) 増大し、下を押すと CC の値が減少します。この設定は、フェーダーやスライダー、ノブのコントロールに最適です。ナブ・パッドが送信する CC ナンバーは、その他の諸設定のエリアのナブ・パッド CC# の項目で変更できます。



3.1.5 メニュー・バーのオプション

画面の上部 (Mac OS の場合) あるいはアプリケーション画面の上部 (Windows の場合) のメニュー・バーから、多くの便利な機能や設定にアクセスできます。プリセットの管理やコピー／ペースト、ファームウェアの管理などができます。メニュー・バーから利用できる機能は、以下のとおりです：

SoftStep ベーシック・エディタ

この項目が用意されているのは Mac OS のみです。Windows では Help メニューの下の方にあります。

SoftStep ベーシック・エディタについて (About SoftStep Basic Editor)

SoftStep ベーシック・エディタについて、対応すべきファームウェアのバージョンと、実際に検出されたバージョンを含む情報を表示します。

- エディタ・バージョン (Editor Version)：エディタのバージョンです。
- エクスペクテッド (Expected)：使用中のベーシック・エディタに対応する、本来ロードされているべきファームウェアのバージョンです。接続した SoftStep のファームウェアのアップデートを実行すると、表示されたバージョンのファームウェアがロードされます。
- ファウンド (Found)：接続した SoftStep に現在ロードされているファームウェアのバージョンです。

ファイル (File)

ファイル・メニューには、ファイルのエクスポートやインポートに関連する機能が含まれます。

エクスポート・プリセット (Export Preset)

選択中のプリセットをファイルとしてエクスポートできます。作成された .softstepbasicpreset の拡張子付きのファイルは、後からベーシック・エディタにインポートできます。プリセットのバックアップや、他のコンピューターへの移動に便利です。

インポート・プリセット (Import Preset)

選択中のプリセットに .softstepbasicpreset ファイルをインポートできます。インポートすると、選択中のプリセットのパラメーターが変更されますが、保存はされません (ですから、REVERT ボタンをクリックすれば、いつでも変更を取り消すことができます)。

エディット (Edit)

エディット・メニューには、プリセットの変更に関する機能が含まれます。

- コピー・プリセット (Copy Preset)

選択中のプリセットの全ての設定を（後でペーストするために）コピーします。

- ペースト・プリセット (Paste Preset)

コピーしたプリセットの設定を選択中のプリセットにコピーします。

- ユーズ・カスタム・プリセット (Use Custom Preset)

ベーシック・エディタでカスタム・プリセットを作成するのに、選択中のプリセットを利用します。

- ユーズ・ファクトリー・プリセット (Use Factory Preset)

ベーシック・エディタで選択中のプリセットを利用する代わりに、ファクトリー・プリセットを（アドバンスド・エディタから）選んでくる場合には、このオプションを利用します。ファクトリー・プリセットを利用する場合は、Keys のエリアがグレー表示されて、「Use Factory Preset: [プリセット名]」という文字が表示されます。

ハードウェア

ハードウェア・メニューには、SoftStep 本体に関する機能が含まれます。

- アップデート／リロード・ファームウェア (Update/Reload Firmware)

このオプションを選択すると、ファームウェアのアップデートや再インストールを手動で開始できます。

ヘルプ

ヘルプ・メニューには、資料や情報に関する機能が含まれます。

- ドキュメンテーション (Documentation)

デフォルトのウェブ・ブラウザを使用して、SoftStep のドキュメントを閲覧します。

- ツールチップの表示／非表示 (Show/Hide Tooltips)

オブジェクトにマウス・カーソルを重ねた時にその説明を表示させるか、させないかを選択します。

3.1.6 メッセージ・タイプ (Message Types)

メッセージ・タイプではキーの動作や、キーを押した時に送信される MIDI メッセージの種類を決定します。

MIDI ノート

MIDI Note のオプションで、あるキーが出力する MIDI ノートを選択します。キーを押した時にはノートオン、キーを離した時にはノート・オフのメッセージがそれぞれ送信されます。この動作は、トグル (Toggle) のオプションを使用して変更できます。

MIDI Note を選択した場合には、以下のオプションが利用できます：

Note

出力する MIDI ノートを設定します。

●設定範囲：0 ～ 127

Velocity

出力される MIDI ノートのベロシティを設定します。

●設定範囲：0 ～ 127

Toggle

このチェックボックスにチェックを入れるか入れないかで、トグル・モードのオン／オフが選択できます。チェックを入れると、最初にキーを押した時にノート・オン・メッセージが送信され、次にキーを押した時にノート・オフ・メッセージが送信されます。チェックを外すと、通常の動作（キーを押すとノート・オン、離すとノート・オフを送信）になります。

プレッシャー (Pressure)

Pressure のオプションで、キーを押す強さを CC メッセージとして出力する方法を設定します。メッセージの値は、キーを強く押せば大きく、弱く押せば小さくなります。

Pressure を選択すると、以下のオプションが利用できます：

CC#

プレッシャー値を出力する CC ナンバーを設定します。

●設定範囲：0 ～ 127

Smooth

プレッシャー。データの変化を滑らかにする度合いを設定します。高い値では滑らかさが強くなり、低い値では滑らかさが弱くなります（0＝効果無し）

トグル (Toggle)

Toggle のオプションを選択すると、キーが CC メッセージを切り替える動作になります。

CC#

トグル機能をオンにするために送信する CC ナンバーを設定します。

●設定範囲：0 ～ 127

Lo/Hi

トグル機能で切り替える大きな値と小さな値を設定します。最初にキーを押すと高いほうの値、次にキーを押すと低い方の値が送信されます。

●設定範囲：0 ～ 127

X/Y

X/Y のオプションを選択すると、キーの X 軸（左右）と Y 軸（上下）のロケーション・データが CC メッセージとして出力できるようになります。X 軸と Y 軸のデータは、別々にでも同時にでも使用できます。X/Y を選択すると、以下のオプションが利用できます：

X CC

X 軸のロケーション・データを送信する CC ナンバーを設定します。

●設定範囲：0 ～ 127

●「-1」を入力すると、X 軸の CC ナンバー出力がオフになります。

Y CC

Y 軸のロケーション・データを送信する CC ナンバーを設定します。

●設定範囲：0 ～ 127

●「-1」を入力すると、Y 軸の CC ナンバー出力がオフになります。

Latch

このチェックボックスで、X 軸と Y 軸の CC ナンバーを維持するかどうかを選択します。チェックを入れると、キーを離しても、押した時の CC ナンバーが維持されます。チェックを外すと、キーを離した時に CC ナンバーがセンター（63）の値に戻ります。

Y Inc

Y インクリメント（Increment）の略で、キーをスライダーのように使うためのオプションです。キーの上部を押すと値が増え、キーの下部を押すと値が減ります。

Y Inc を選択すると、以下のオプションが利用できます：

CC#

Y インクリメントの値を送信する CC ナンバーを設定します。

プログラム（Program）

Program のオプションを選択すると、キーを押した時にプログラム・チェンジやバンク・セレクトのメッセージが送信できるようになります。

Program を選択すると、以下のオプションが利用できます：

Program

キーを押した時に送信されるプログラム・チェンジ・ナンバーを設定します。

●「-1」を入力すると、プログラム・チェンジ・メッセージの送信がオフになります。

Bank

キーを押した時に送信されるプログラム・チェンジ・ナンバーを設定します。

●「-1」を入力すると、プログラム・チェンジ・メッセージの送信がオフになります。

⚠ 注意：127 よりも大きな値のバンク・ナンバーが必要な場合は、SoftStep アドバンスド・エディタを使用してください。ベーシック・エディタのバンク・セレクト・メッセージは、MSB が 0 に固定されているので、0 ～ 127 の範囲でしかバンク指定ができません。

3.1.7 ディスプレイ表示

SoftStep のディスプレイ表示は、選択したメッセージ・タイプによって異なります。

MIDI Note：押したキーの名前が表示されます。

Pressure：現在のプレッシャー値がリアルタイムで表示されます。

Toggle：押したキーの名前が表示されます。

X/Y：X/Y 値がリアルタイムで表示されます。

Y Inc：現在の設定値がリアルタイムで表示されます。

Program：押したキーの名前が表示されます。

3.1.8 ファクトリー・プリセット

ベーシック・エディタには、あらかじめ設定された 10 種類のファクトリー・プリセットが入っています。その多くは、工場出荷時に SoftStep 本体に保存されたプリセットと同じですが、ベーシック・エディタのオプションをご紹介するためのものも含まれています。

ベーシック・エディタには、以下のプリセットが入っています：

NOTE

個々のキーが MIDI ノート（ノート・ナンバー 60 ～ 69）を CC メッセージとして出力します。キーを踏むとノート・オン、離すとノート・オフのメッセージが送信されます。

PRES

個々のキーがプレッシャー値を CC メッセージ（110 ～ 119）として出力します。値は強く踏めば高く、弱く踏めば低くなります。

TOGL

個々のキーがトグル情報を CC メッセージ（20 ～ 29）として出力します。キーを踏むとオン、同じキーをもう一度踏むとオフに切り替わります。

XY

個々のキーが X 軸（左から右）と Y 軸（上から下）のロケーション・データを、別々の CC メッセージとして出力します。CC メッセージの範囲は X 軸が 20 ～ 29、Y 軸が 30 ～ 31 です。

それぞれのキーの Latch モードをオンにすると、キーを離れた時点での X 軸や Y 軸の CC 値が維持されます。キーを離れた時に中央の値に戻る設定にしたい場合は、エディタで設定を切り替えてください。

YINC

個々のキーが Y Inc に設定され、スライダーのように機能します。キーの上半分を押すと値が増加し、下半分を押すと減少します。

PROG

個々のキーを押すと、プログラム・チェンジ・メッセージが出力されます。キーで扱えるプログラム・チェンジメッセージの範囲は 21 ～ 30 です。

11RK

Eleven Rack のファクトリー・プリセットを再現したものです。Avid 社の Eleven Rack をコントロールする時に、このプリセットを使用してください。

POD

Line6 Pod のファクトリー・プリセットを再現したものです。Line6 Pod のアンプ・モデラーをコントロールする時に、このプリセットを使用してください。

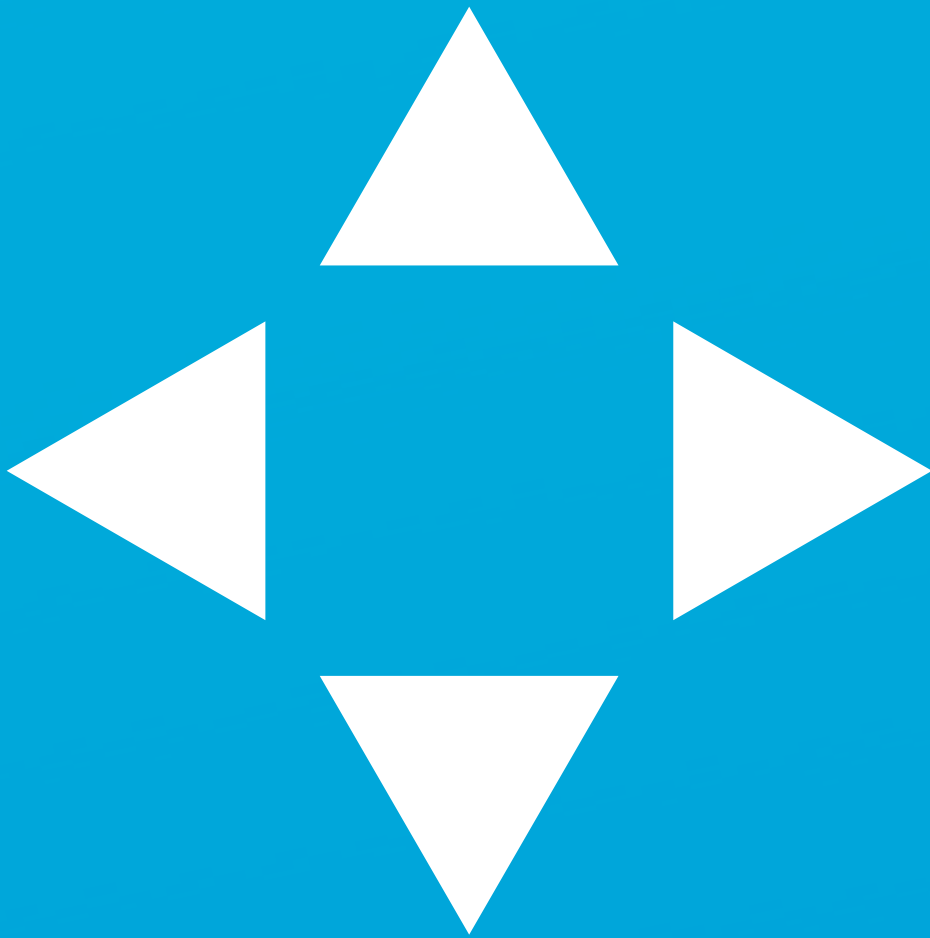
XYLV

「X/Y Live」の略で、XY プリセットと全く同じですが、Latch パラメーターが無効になっている点が異なります。すなわち、キーを離すと中央の値（63）に戻ります。

PRGM

もうひとつのプログラム・チェンジ・プリセットです。こちらのほうは、ファクトリー・プリセットの「プログラム・チェンジ（Program Change）」をロードするために、ベーシック・エディタの「ファクトリー・プリセットを使用（Use Factory Preset）」という機能を利用するプリセットです。

Advanced Editor



4.0 アドバンスド・エディタ

ベーシック・エディタはもっとも多く利用される機能を網羅していますが、より複雑な設定が必要になった場合には、アドバンスド・エディタの出番です。

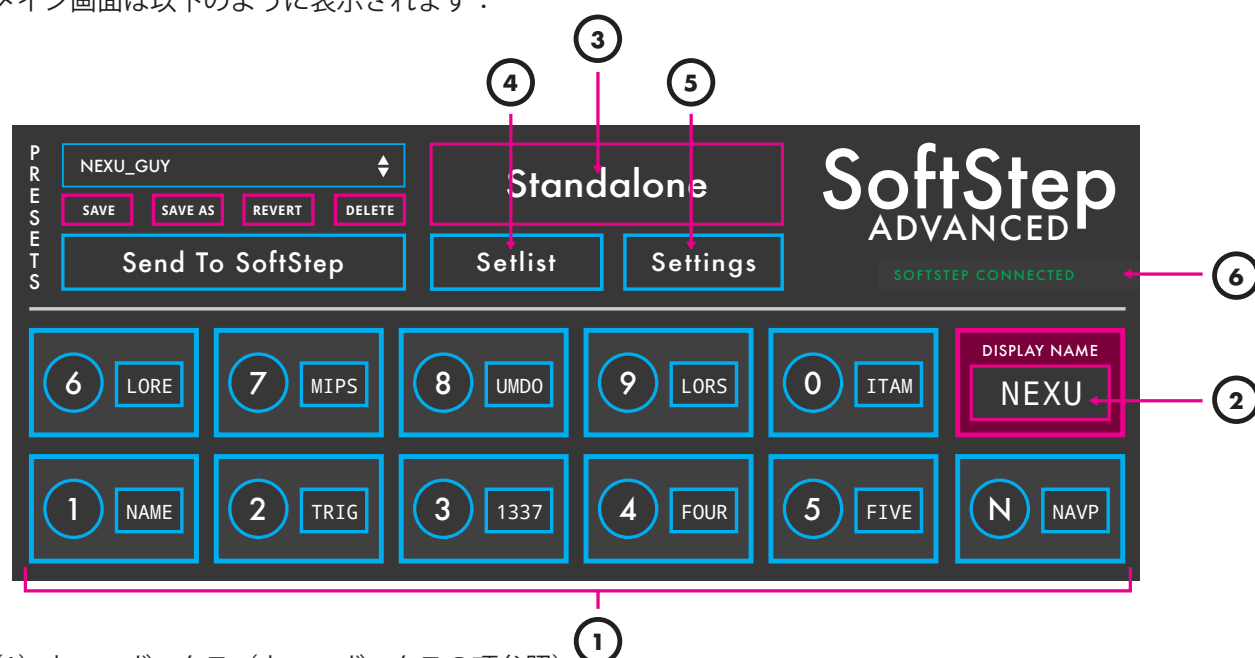
SoftStep のアドバンスド・エディタは、完全にカスタマイズしたプリセットを 16 個まで作成できます。

個々のキーに複数の機能を割り当てたり、LED の動作をカスタマイズしたり、センサー・レスポンスの設定を増やして SoftStep の演奏性を細かくチューニングすることができます。

4.1 メイン画面の概要

アドバンスド・エディタを立ち上げると、メイン画面が表示されます。ここからキーのカスタマイズ、設定やセットリストの画面、プリセットの管理など、全ての設定にアクセスできます。

メイン画面は以下のように表示されます：



- (1) キー・ボックス（キー・ボックスの項参照）
- (2) ディスプレイ・ネーム・ボックス（ディスプレイ・ネーム・ボックスの項参照）
- (3) ホステッド／スタンドアローン切り替えスイッチ：ホステッド・モードとスタンドアローン・モードを切り替えます。
- (4) セットリスト・ボタン：セットリスト画面を開きます。
- (5) セッティング・ボタン：設定（Settings）画面を開きます。
- (6) 接続インジケータ：コンピュータに接続した SoftStep 本体と連携が取れているかどうかをここで確認します。ホステッド・モードでの使用やファームウェアのアップデート、SoftStep 本体へのプリセットの送信、SoftStep の設定変更を行うには、本体との連携を取る必用があります。プリセットをエディットしたり管理したりするだけなら、本体と連携させる必要はありません。

4.1.1 キー・ボックス

アドバンスド・エディタのメイン画面にあるキー・ボックスには、SoftStep 本体同様、下段に 1～5、上段に 6～0 のキー（そして、右側にナブ・パッド）が並んでいます。キー・ボックスでは、キーに名前を付けたり、キーのモジュレーション画面を開いたり、コピー／ペーストを行うキーを選択したりできます。

1 個のキー・ボックスは、次のような部分に分かれています：

(1) ボックスの背景

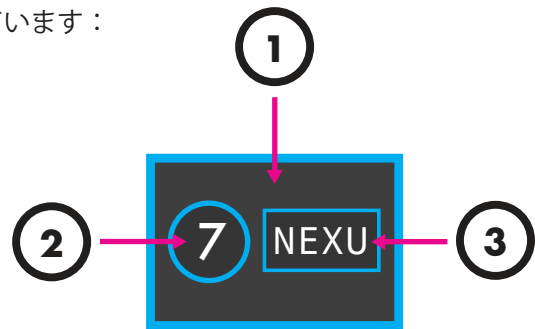
キー・ボックスの背景部分をクリックすると、そのキーの機能をコピー／ペーストできます。選択したキーの機能は、エディット・メニュー・バーのオプションでコピーまたはペーストができます。

(2) レーベル／モジュレーション画面を開く

クリックすると、そのキーのモジュレーション画面が開きます。

(3) ネーム・ボックス

ここで SoftStep のキーに名前が付けられます。キーの名前は、状況に応じて SoftStep 本体のディスプレイに表示されます。



⚠ 注意：キーの名前は、そのキーのモジュレーション画面でもエディットできます。

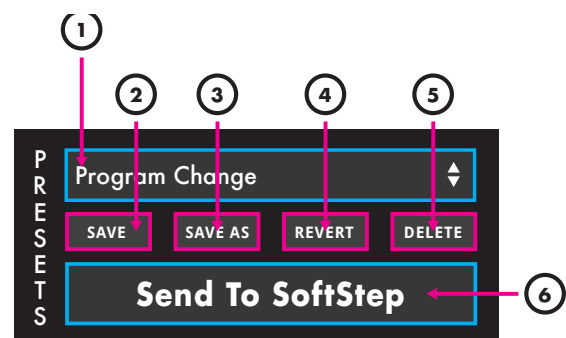
4.1.2 ディスプレイ・ネーム・ボックス

SoftStep 本体にプリセットをロードした時、ディスプレイに表示される名前をこのボックスで設定します（最大 4 文字）。SoftStep 本体で操作する時に混乱しないように、個々のプリセットには区別しやすく特徴的な名前を付けるのが良いでしょう。



4.1.3 プリセット・セクション

アドバンスド・エディタのメイン画面の左上が、プリセット・セクションのホーム位置になります。プリセットの選択や管理はすべて、この部分で行います。プリセット・セクションでは、以下の機能が利用できます：



(1) プリセット選択ドロップダウン・メニュー

クリックすると、全てのプリセットを含むリストが表示されます。その中の1つを選ぶと、ロードされて選択中のプリセットになります。

(2) SAVE ボタン

クリックすると、選択中のプリセットで行った変更が全て保存されます。保存されていない変更があると、ボタンが点灯します。

(3) SAVE AS ボタン

選択中のプリセットに何らかの変更を行った後でクリックすると、それを新しいプリセットとして保存します。変更されたプリセットは、変更前の状態に戻ります。

(4) REVERT ボタン

プリセットを保存された時の状態に戻します。保存していない変更は無効になります。

(5) DELETE ボタン

選択中のプリセットを消去します。間違って消去してしまわないように、クリックすると確認のダイアログが表示されます。

(6) Send To SoftStep ボタン

(スタンドアローン・モード時のみ)

接続した SoftStep 本体のセットリストにあるプリセットをアップデートします。

プリセットに関するその他の情報

●プリセットのインポート／エクスポート

アドバンスド・エディタは、プリセットをインポートしたりエクスポートしたりできます。詳細はプリセットのインポートおよびエクスポートの項を参照してください。

●バージョン 1.21 のプリセットのインポート

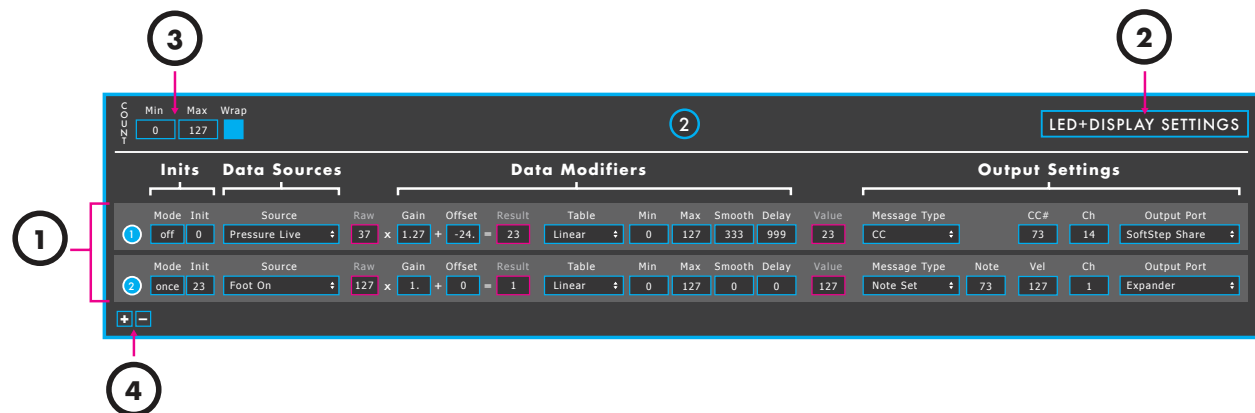
以前のバージョンの SoftStep エディタで作成したプリセットもインポートできます。詳細は、ホステッド／スタンドアローン・モードでの v1.21 プリセットのインポートの項を参照してください。

4.2 キー・モジュレーション画面の概要

個々のキー（ナブ・パッドを含む）には「モジュレーション画面」と呼ばれるものがあり、あるキーの動作は、対応するモジュレーション画面で決定します。

4.2.1 概要

以下がキー・モジュレーション画面です。



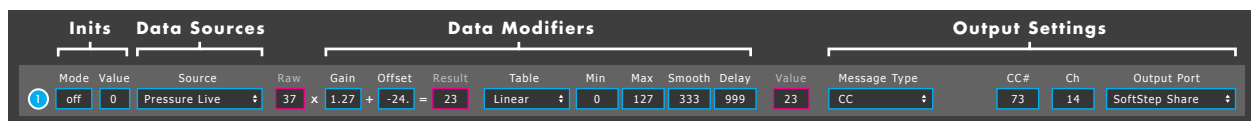
- (1) モッドライン（モッドラインの項参照）
- (2) LED およびディスプレイの設定（LED およびディスプレイの設定の項参照）
- (3) カウンター（カウンターの項参照）
- (4) モッドラインの対かと削除（モッドラインの追加と削除の項参照）

4.2.2 モッドライン

モジュレーション画面の主要部分はモッドラインです。モッドラインでは、データのタイプやその扱い方、そしてその出力方法といった、SoftStep のキーの動作状況が確認できます。

1つのキーには、それぞれ全く異なる機能を持つモッドラインを最大6本まで作成できます。

以下がモッドラインです：



情報は左から右に流れています。

4.2.2.1 オン／オフ・ボタン

モッドラインのオン／オフを切り替えます。



4.2.2.2 初期値 (Inits)

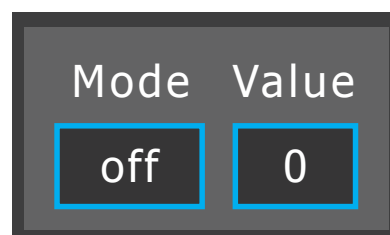
プリセットをロードした時のパラメーターやモッドラインの初期状態を設定します。この部分では、2種類の設定が行えます。

モード (Mode)

初期値の振る舞いを決定します。詳細は付録の初期値 (Inits) の項を参照してください。

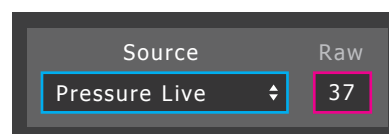
値 (Value)

初期値がトリガーされた時に出力する値を設定します。この値は、この設定部分を含むモッドラインを通じて出力されます。



4.2.2.3 データ・ソース (Source)

モッドラインのデータ・ソースのセクションでは、SoftStep 本体から受信したセンサー・データの中から、使用するデータを選択します。



ソース (Source)

キー・プレッシャーとフット・オン、フット・オフの中から、使用するセンサー・データを選択します。利用可能なソース（およびそれらの機能）については、付録のコントロール・ソースの項を参照してください。

生データ (Raw)

(ホステッド・モードのみ)

選択したソースから入力されたセンサーの生データをリアルタイムで表示します。

4.2.2.4 データ・モディファイ

データ・モディファイアーのセクションでは、選択したソースから入力された値を、倍率を変える、ズラす、最小値と最大値を設定する、スムージング（平滑化）を行うなど、様々な形に変換できます。



ゲイン (Gain)

特定の倍率で入力された値を変換します。初期値は 1.00 です。

オフセット (Offset)

入力された値に特定の値を加算します。減算する時にはマイナスの値に設定します。初期値は 0 です。

リザルト (Result)

(ホステッド・モードのみ)

ゲインとオフセットの段階を通ったモッドラインの値をリアルタイムで表示します。

テーブル (Table)

入力された値を変化させるカーブの種類を設定します。トグルの動作やキー・カウンターとの相互作用の設定もここで行います。利用可能なテーブル（およびそれらの動作）については、付録のテーブルの項を参照してください。

ミニマム (Min)

出力できる最小の値を設定します。最小値よりも小さな値は全てこの値に変換され、無視されることはありません。

マキシマム (Max)

出力できる最大の値を設定します。最大値よりも大きな値は全てこの値に変換され、無視されることはありません。

スムーズ (Smooth)

データを滑らかに（スムージング）します。

次に入力される値との間を滑らかにつなぐ時間を設定します。小さな値では離れた値どうしが素早く滑らかにつながり、大きな値ではより長い時間をかけてつながります。

●設定範囲：0 ～ 5000ms

ディレイ (Delay)

(ホステッド・モードのみ)

データを遅らせます。

入力された値が適用されるまでの時間を（ミリセカンド単位で）設定します。

●設定範囲：0 ～ 5000ms

値 (Value)

(ホステッド・モードのみ)

データ・モディファイアー・セクションを通ったモッドラインの値を、リアルタイムで表示します。

4.2.2.5 出力の設定

出力設定のセクションでは、モッドラインを通った入力データを出力する方法を設定します。

The diagram shows a dark-themed UI for output settings. It contains three main sections: 'Message Type' with a dropdown menu showing 'CC', 'CC#' with a text input field showing '73', and 'Ch' with a text input field showing '14'. To the right of these is 'Output Port' with a dropdown menu showing 'SoftStep Share'. Three numbered callouts are present: '1' points to the 'Message Type' dropdown, '2' points to the 'CC#' and 'Ch' input fields, and '3' points to the 'Output Port' dropdown.

(1) メッセージ・タイプ (Message Type)

出力する MIDI メッセージ（あるいはその他のメッセージ・タイプ）を設定します。利用可能なメッセージ・タイプ（およびそれらの機能）についての詳細は、付録のメッセージ・タイプの項を参照してください。

(2) メッセージ・タイプ・オプション

それぞれのメッセージ・タイプを選択すると、3 種類までのオプションが設定できます。これらのオプションで、出力する MIDI ノート・ナンバーやベロシティ、送信する CC ナンバー、プログラムチェンジの値を出力するチャンネルといった、メッセージの振る舞いを細かく設定します。

(3) 出力ポート (Output Port)

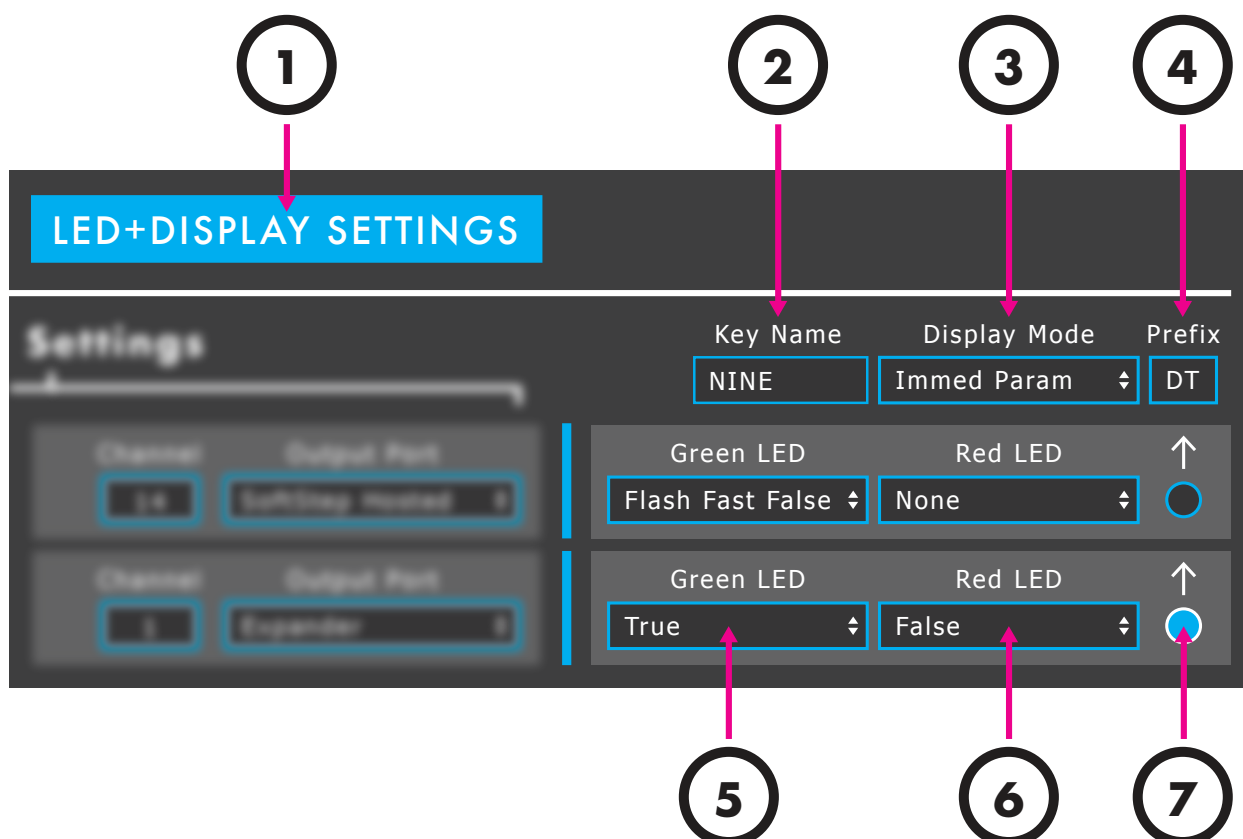
モッドラインのメッセージを出力する MIDI ポートや MIDI 機器を選択します。

4.2.3 LED およびディスプレイの設定

初期状態では隠れていますが、キー・モジュレーション画面右上の LED+DISPLAY SETTINGS ボタンをクリックすると、LED およびディスプレイを設定するセクションが表示されます。

これらはモッドラインの一部で、SoftStep 本体のキーの緑と赤の LED の振る舞いや、キーを押した時の本体ディスプレイの表示に関する設定が行えます。

LED およびディスプレイの設定画面は、表示されると以下のような状態になります：



(1) 表示／消去スイッチ

モジュレーション画面の LED およびディスプレイの設定セクションを表示させるか隠すかを切り替えるスイッチです。隠した場合でも設定は有効のままです。

(2) キー・ネーム (Key Name)

キーの名前を表示します。キーの名前は、ある（ディスプレイ・モードのオプションで設定した）状況下で SoftStep 本体のディスプレイに表示されます。

⚠ 注意：キー・ネームは、エディタのメイン画面のキー・ボックスの部分でもエディットできます。

(3) ディスプレイ・モード (Display Mode)

キーを押した時の SoftStep のディスプレイの表示方法を設定します。利用可能な全てのディスプレイ・モード（および、それぞれの機能）については、付録のディスプレイ・モードの項を参照してください。

(4) 接頭辞 (Prefix)

SoftStep のディスプレイに表示されるパラメーター値の前に、1 または 2 文字の接頭辞が追加できます。たとえば接頭辞を「FF」に設定し、モッドラインの値が「57」の場合は、ディスプレイに「FF57」と表示されます。

接頭辞を付けない場合は、空欄のままにしておいてください。

(5) 緑 LED (Green LED)

キーの緑 LED の振る舞いを設定します。利用可能な全ての LED モード（および、それぞれの機能）については、付録の LED モードの項を参照してください。

(6) 赤 LED (Red LED)

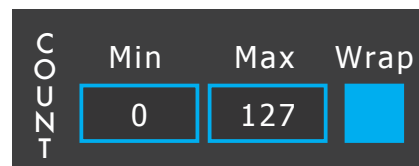
キーの赤 LED の振る舞いを設定します。利用可能な全ての LED モード（および、それぞれの機能）については、付録の LED モードの項を参照してください。

(7) アクティブなモッドラインの選択ボタン

ディスプレイ・モードの設定に使用するモッドラインのデータを選択します。それぞれのキーで選択できるモッドラインは 1 個です。

4.2.4 カウンター

キー・カウンターは、2 つの設定値——最小値と最大値——の範囲内で増減します。カウンターとは、モッドラインのカウンター・セット (Counter Set) およびカウンター・インクリメント (Counter Inc.)、カウンター・デクリメント (Counter Dec.) を使用して連携します。



Min

キー・カウンターの最小値を設定します。この設定値よりも小さな値は出力されません。

Max

キー・カウンターの最大値を設定します。この設定値よりも大きな値は出力されません。

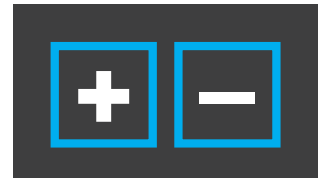
Wrap

チェックを入れると、キー・カウンターは最大値を超えると最小値に戻ります（最小値を下回ると最大値に戻ります）。チェックを外すと、最小値あるいは最大値に達したところで止まります。

4.2.5 モッドラインの追加と削除

「プラス」のボタンでモッドラインを（キー 1 個あたり最大 6 個まで）追加し、「マイナス」のボタンで（最小 2 個まで）消去します。

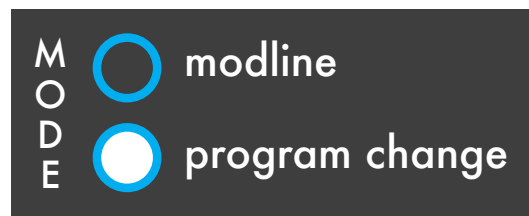
モッドラインを消去した場合は、設定値を保存したままモッドラインが無効になります。これによって、モッドラインを誤って消去した場合でも復帰が可能になり、有効なまま隠した状態になっているモッドラインとの混乱も避けられます。



4.2.6 ナブ・パッド・モジュレーション画面

ナブ・パッドのモジュレーション画面には、他のキーのモジュレーション画面といくつかの違いがあります。

- ナブ・パッドには LED が無いので、緑や赤の LED に関するオプションはありません。
- 他のキーとはソースの種類が若干異なります（ナブ・パッド専用のソースについては、付録のナブ・パッドのソースの項を参照してください）。
- ナブ・パッドでは、左上にモード（Mode）の設定があり、「モッドライン」と「プログラム・チェンジ」の 2 種類のオプションが選択できます。
- モッドライン：通常のキーのように、ナブ・パッドでモッドラインを使用します。
- プログラム・チェンジ：Nav Yx10 & Key ソースと合わせて使用します。ナブ・パッドで、0～12 まで（あるいは設定した最小と最大の範囲）の値をその 10 倍単位で変化させることができます。このオプションを選択すると、ナブ・パッドのモッドラインは無効になります。

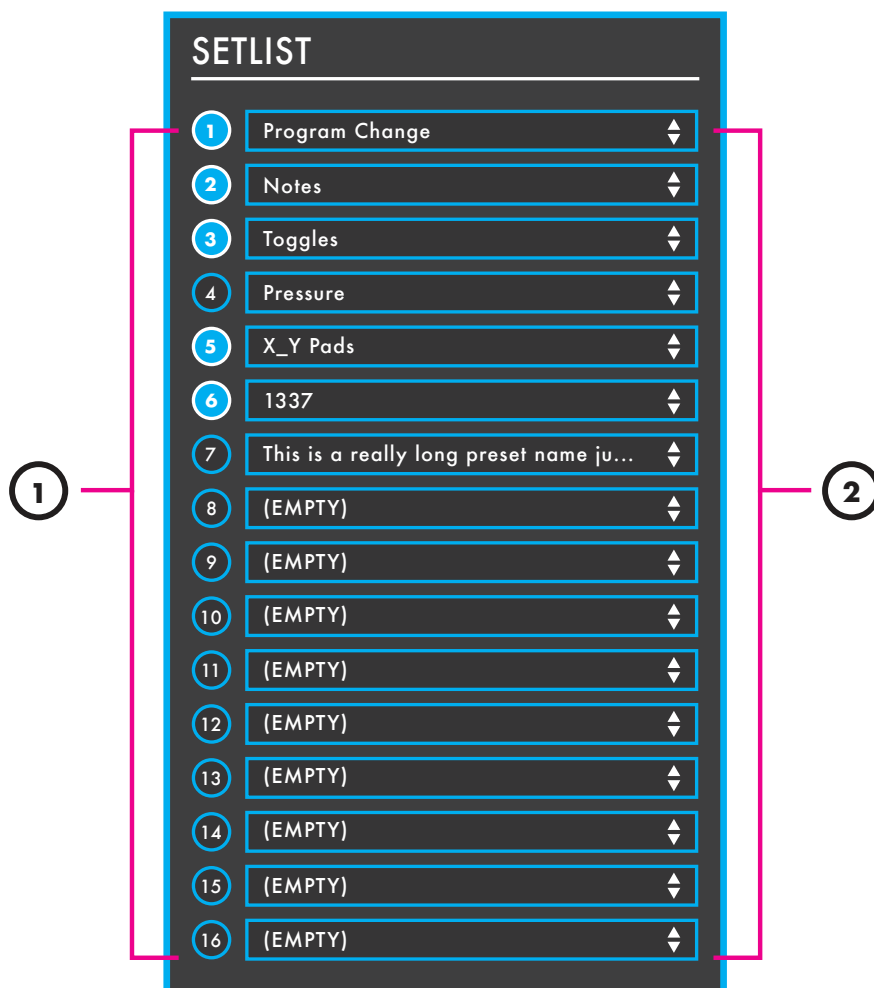


4.3 セットリスト画面

セットリスト (SETLIST) には、16 個までのプリセットを好きな順番で並べられます。これが、SoftStep 本体のナブ・パッドの左右キーを押して選択できるプリセットの順番になります。

概要

以下がセットリスト画面です：



(1) 有効／無効ボタン

プリセットのスロットの有効／無効を切り替えます。青が有効、黒が無効です。

(2) プリセット選択ドロップダウン

スロットに並べるプリセットを選択します。

ホステッドおよびスタンドアローン・モード

セットリストは1個しかないように見えますが、実際にはホステッド・モードとスタンドアローン・モードそれぞれに対して、別々のセットリストがあります。ホステッド・モードで表示されるのはホステッド・モード用のセットリスト、スタンドアローン・モードで表示されるのはスタンドアローン・モード用のセットリストです。

4.4 設定 (Settings) 画面

設定画面には、数々のオプションが並んでいます。そのほとんどは、SoftStep のセンサーの反応の仕方に関連するものです。

4.4.1 概要

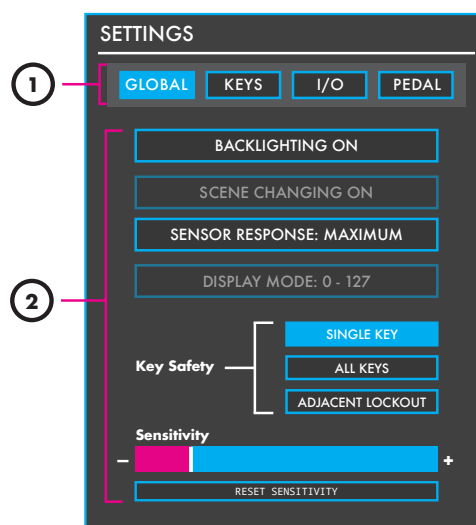
設定画面を最初に開くと、右図のような表示になります：

(1) タブ

設定画面にはグローバル (Global)、キーズ (Keys)、入出力 (I/O)、ペダル (Pedal) の4つのタブがあります。タブはクリックして選択します。

(2) 設定 (タブの下のエリア)

タブの下のエリアには、それぞれのタブに応じた設定項目が表示されます。



4.4.2 グローバル (Global) タブ

グローバル・タブでは、バックライトのオン／オフやセンサーのレスポンスの調節、感度の変更など、SoftStep 全体に関連する設定が行えます。

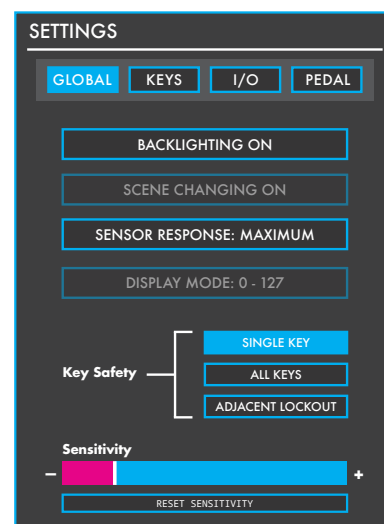
バックライト (Backlighting) のオン／オフ

SoftStep のバックライトのオン／オフを切り替えます。

シーン・チェンジ (Scene Changing) のオン／オフ

(スタンドアローン・モードのみ)

ナブ・パッドの左右キーを使うシーンの切り替えのオン／オフを切り替えます。



センサー・レスポンス (Sensor Response) の最大値／平均値

SoftStep のセンサー (キー 1 個あたり 4 個) の全体的なキー・プレッシャーを設定します。

- 最大値 (Maximum)：最大値のセンサーだけに注目してキー・プレッシャーを決定します。
- 平均値 (Average)：4 個のセンサーの平均値をもとにキー・プレッシャーを決定します。

ディスプレイ・モード・スイッチ

(スタンドアローン・モードのみ)

SoftStep のディスプレイにプログラム・チェンジ・データを表示させます。データは 0 ～ 127 または 1 ～ 128 の範囲で表示できます。

キー・セーフティ・モード

同時に動作可能なキーの数を設置します。

- シングル・キー (Single Key)：いちどに 1 個のキーだけが動作します。
- アジャセント・ロックアウト (Adjacent Lockout)：(ホステッド・モードのみ) SoftStep で動作中のキーのすぐ隣のキーが同時にトリガーされないようにします。
- オール・キーズ (All Keys)：いつでもどのキーでもトリガーできます。

センシティビティ (Sensitivity) 調節

SoftStep の感度を調節します。スライダーを右 (「+」印の方向) に動かすと感度が上がり、左 (「-」の方向) に動かすと下がります。

4.4.3 キーズ (Keys) タブ

キーズ・タブでは、SoftStep の個々のキーごとの設定が行えます。それぞれのキーについて、オン／オフのしきい値 (スレッシュホールド) や X/Y の値の変化率を調節します。

キーズ (Keys) セクション

キーズ・セクションには、SoftStep 本体の個々のキーで設定可能なパラメーターが揃っています。番号の付いたそれぞれの行は、同じ番号のキーに対応しています。

X Inc Speed

X 軸 (上下) 方向のソースの値の変化率を設定します。
変化は高い値ほど速く、低い値ほど遅くなります。

Y Inc Speed

Y 軸 (左右) 方向のソースの値の変化率を設定します。
変化は高い値ほど速く、低い値ほど遅くなります。

SETTINGS				
GLOBAL KEYS I/O PEDAL				
Keys				
	x inc speed	y inc speed	on thresh	off thresh
1	0	0	10	5
2	0	0	10	5
3	0	0	10	5
4	0	0	10	5
5	0	0	10	5
6	0	0	10	5
7	0	0	10	5
8	0	0	10	5
9	0	0	10	5
10	0	0	10	5

Nav Pad					
	N	S	E	W	y inc speed
on thresh	10	10	10	10	0
off thresh	5	5	5	5	0

On Threshold

キーが「オン」になった（あるいは「トリガーされた」）と判断するプレッシャー値を設定します。高い値ではキーを強く押す必要があり、低い値では弱く押しても反応します。

Off Threshold

キーが「オフ」になった（あるいは「キーを離れた」）と判断するプレッシャー値を設定します。高い値では早く（プレッシャー値があまり減らなくても）オフになり、低い値では遅く（プレッシャー値がかなり低くなってから）オフになります。

ナブ・パッド（Nav Pad）セクション

ナブ・パッドの動作に関するオプションも、通常のキーのものと全く同じですが、上下左右の4方向それぞれに設定項目が用意されている点だけが異なります。

4.4.4 入出力（I/O）タブ

入出力タブには、MIDI および OSC の入力関連オプションが揃っています。

MIDI 入力（MIDI Input）

（ボステッド・モードのみ）

MIDI 入力のセクションには、接続された外部の MIDI 機器やソフトウェアから受信した MIDI 信号の扱いに関するオプションが揃っています。利用可能な MIDI 入力は A～H まで 8 個あり、これらにはモッドライン内で MIDI A～H のソースを利用することでアクセスできます。

オン・オフ（Enables）

MIDI 入力のオン／オフを設定します。

デバイス（Device）

MIDI データの送信元となる機器を指定します。

チャンネル（Channel）

MIDI データの受信チャンネルを設定します。

設定した以外のチャンネルの MIDI 信号は全て無視されます。

メッセージ・タイプ（Message Type）

処理するメッセージ・タイプを設定します。設定した以外のメッセージ・タイプは無視されます。タイプは以下の中から選択できます。

- ノート（Note）：MIDI ノート・メッセージを処理します。
- CC：CC メッセージを処理します。
- プログラム・チェンジ（Program Change）：プログラム・チェンジ・メッセージを処理します。

The screenshot shows the 'SETTINGS' window with the 'I/O' tab selected. It contains two main sections: 'MIDI Input' and 'OSC Input'.

MIDI Input: A table with 8 rows (A-H). Each row has an 'enable' checkbox, a 'prefix' field (all empty), a 'value' field (all '1'), a 'Note' checkbox (all checked), a 'value' field (all '60'), and an 'in port' field (all '0').

OSC Input: A table with 8 rows (A-H). Each row has an 'enable' checkbox, a 'prefix' field (all empty), and a 'value' field (all '0').

At the bottom, there are three fields: 'Sending IP Address' (127, 0, 0, 1), 'out port' (7000), and 'in port' (7001).

ナンバー（#）

処理する特定のノート、CC またはプログラム・チェンジのナンバーを設定します。設定した以外のナンバーは無視されます。

値（Value）

入力される値をリアルタイムで表示します。MIDI A ～ H のソースを利用する場合は、ここに表示された値がモッドラインに送られます。

OSC（OpenSound Control）入力（OSC Input）

（ホステッド・モードのみ）

OSC 入力のセクションには、OSC 対応のソフトウェアや外部機器からの OSC 受信に関するオプションが（送信に関するオプションも 1 個）揃っています。

オン／オフ（Enables）

OSC 入力のオン／オフを設定します。

プレフィクス（Prefix）

処理する OSC のプレフィクスを設定します。設定した以外のプレフィクスは無視されます。

値（Value）

入力される値をリアルタイムで表示します。OSC A ～ H のソースを利用する場合は、ここに表示された値がモッドラインに送られます。

送信 IP アドレス（Sending IP Address）

OSC メッセージを送信するための IP アドレスを設定します。

●初期値：127.0.0.1（ローカル・ホスト）

出力ポート（Out Port）

OSC を「送信」するポートを設定します。

●初期値：7000

入力ポート（In Port）

送信されてきた OSC メッセージを受信するポートを設定します。

●初期値：7001

4.4.5 ペダル（Pedal）タブ

ペダル・タブには、エクスプレッション・ペダルのキャリブレーションおよびスムージングのためのオプションが揃っています。

概要

ペダル・タブは右図のような表示になります：

キャリブレーション開始ボタン（Start Calibration）
クリックすると、ペダルのキャリブレーションが始まります。

ライブ・フィードバック・スライダー
（ホステッド・モードのみ）

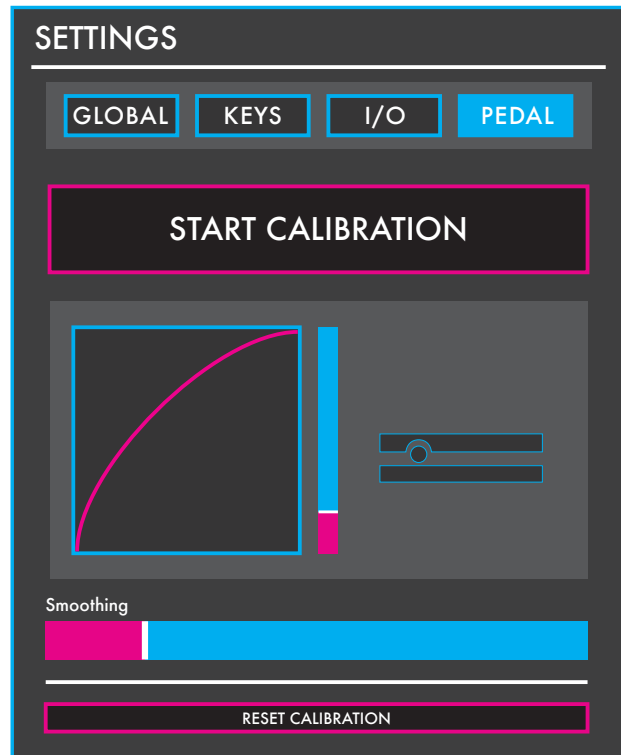
エクスプレッション・ペダルから入力されるデータをリアルタイムで表示します。

スムージング（Smoothing）

エクスプレッション・ペダルのデータにスムージングを適用する量を調節します。スライダーを左に動かすと、スムージングの適用量が減少します。

リセット・キャリブレーション・スイッチ

ペダル・キャリブレーション・テーブルをリセットします。



キャリブレーションの方法

キャリブレーション開始ボタンをクリックすると、キャリブレーションが始まります。接続したエクスプレッション・ペダルを 5 秒間、めいっばいに踏み込んだり戻したりすると、キャリブレーション・テーブルが更新されます。

エクスプレッション・ペダル

SoftStep では、エクスプレッション・ペダルのみが使用できます。ボリューム・ペダルは使用できません。メーカーによって呼び方が異なり、ボリューム・ペダルがエクスプレッション・ペダルと呼ばれていたり、その逆だったりするので、しっかり確認する必要があります。

4.5 メニュー・バーのオプション

ディスプレイの上部（Mac OS）あるいはアプリケーション画面の上部（Windows）のメニュー・バーから、数多くの便利な機能や設定が利用できます。プリセットの管理やコピー／ペースト・キー、ファームウェアのアップデートなどの機能が含まれます。

アドバンスド・エディタのメニュー・バーからは以下のオプションが利用できます：

SoftStep アドバンスド・エディタ

このオプションは、Mac OS でのみ利用できます。Windows では、後述のヘルプ（Help）メニューの中にあります。

SoftStep アドバンスド・エディタについて（About SoftStep Advanced Editor）

SoftStep ベーシック・エディタについて、エディタが前提とするファームウェアのバージョンと実際に検出されたバージョンを含む情報が表示されます。

- エディタ・バージョン（Editor Version）：エディタのバージョンが表示されます。
- 前提とするバージョン（Expected FW）：現在のバージョンのエディタが前提とするファームウェア・バージョンです。ファームウェアのアップデートを行うと、ここに表示されたバージョンのファームウェアが接続した SoftStep にロードされます。
- 検出されたバージョン（Found FW）：接続した SoftStep に現在ロードされているファームウェアのバージョンです。

ファイル（File）

エクスポート・プリセット（Export Preset）

選択中のプリセットを、ハードディスク上の外部ファイルにエクスポートします。プリセットを友達に送ったり、新しいコンピューターに移したり、バックアップを作成したりする時に便利です。

作成された .softsteppreset ファイルは、アドバンスド・エディタのインポート・プリセット（Import Preset、同じファイル・メニューの中にあります）機能を使ってインポートできます。

インポート・プリセット（Import Preset）

softsteppreset ファイルをインポートします。プリセットをバックアップから復元したり、友達からもらったプリセットや以前に使用していたコンピューターのプリセットをインポートしたりする時に使用します。

インポート・ホステッド／スタンドアローン・プリセット・フロム v1.21

（Import Hosted/Standalone Presets From v1.21）

SoftStep エディタの以前のバージョン（1.21）からインポートできます。

1. 「Import Hosted/Standalone Presets From v1.21」を選択します。
2. 古いエディタの「プリセット（Preset）」フォルダーを指定します。
3. 「選択（Choose）」をクリックすると、自動的にインポートの作業が始まります。
4. プリセット選択（Preset Selection）のドロップダウン・メニューをクリックします。

ホステッド・モードの場合、バージョン 1.21 のエディタからはホステッド・モード用のプリセットが、スタンドアローン・モードの時には、スタンドアローン・モード用のプリセットがそれぞれインポートされます。

現在のところ、ホステッド・モードでスタンドアローン・モード用のプリセットのインポート（あるいは、その逆）はできません。

エディット (Edit)

コピー・プリセット (Copy Preset)

選択中のプリセットをコピーします。後で別のプリセットに上書きペーストしたり、新しいプリセットにペーストしたりできます。

△ 参考：コピーやペーストは、ホステッド・モードとスタンドアローン・モードの間でも行えます。

ペースト・プリセット (Paste Preset)

選択中のプリセットに、コピーしたプリセットをペーストします。この操作は、あらかじめプリセットをコピーしている場合にのみ可能です。

△ 参考：コピーやペーストは、ホステッド・モードとスタンドアローン・モードの間でも行えます。

ペースト・プリセット・トゥ・ニュー (Paste Preset To New)

コピーしたプリセットを、新しいプリセットにコピーします。この操作は、あらかじめプリセットをコピーしている場合にのみ可能です。

コピー・キー (Copy Key)

選択中のキーの設定をコピーします（コピー元のキーは、メイン画面のキー・ボックスをクリックして選択します）。

ペースト・キー (Paste Key)

以前にコピーしたキーの設定を、選択中のキーにペーストします。この操作は、あらかじめキーの設定をコピーしている場合にのみ可能です。

ハードウェア (Hardware)

アップデート／リロード・ファームウェア (Update/Reload Firmware)

ファームウェアのアップデートまたは再インストールを手動で開始します。

ヘルプ (Help)

ドキュメンテーション (Documentation)

この取扱説明書のダウンロード版のリンクです。※<https://pearl-music.co.jp/kmi/product/636/> から

ツールチップの表示／非表示 (Show/Hide Tooltips)

オブジェクトにマウス・カーソルを重ねた時にその説明を表示させるか、させないかを選択します。

4.6 ホステッドとスタンドアローンの違い

SoftStep は、ホステッドとスタンドアローンの 2 種類のモードでの操作が可能です。どちらのモードも基本的な機能は同様ですが、異なる部分もいくつかあり、それぞれに長所と短所があります。

ホステッド・モード

ホステッド・モードを利用するには何よりもまず、アドバンスト・エディタが起動しているコンピュータに SoftStep を接続する必要があります。

ホステッド・モードでは、SoftStep から生のセンサー・データを（CC メッセージとして）SoftStep エディタに送信します。エディタはその生データを正しい（モッドラインで定義した）MIDI データに変換し、仮想の MIDI ポートである SoftStep Share から出力します（SoftStep Share は Mac のみのアプリです。Windows ユーザーの方は、サードパーティの代替アプリについて SoftStep Share の項を参照してください）。

スタンドアローン・モード

スタンドアローン・モードでは、SoftStep が“標準的な” MIDI コントローラーとして動作し、全ての MIDI データが SoftStep から直接出力されます。SoftStep をスタンドアローン・モードで動作させるためにエディタを立ち上げる必要はありません。

ホステッド・モードとスタンドアローン・モードの違い

ステート・リコール（State Recall）

ホステッド・モードでは、ステート・リコール機能が使用できます。これはつまり、X/Y 軸の設定位置やトグルの設定、LED の点灯状況がプリセットを切り替えても記憶されるということを意味します。スタンドアローン・モードの場合、SoftStep 1 ハードウェアではステート・リコール機能が利用できないので、プリセットを切り替える時に設定状況は記憶されません。SoftStep 2 ハードウェアでは、スタンドアローン・モードでもステート・リコール機能が利用できます。

ライブ・エディタ・フィードバック（Live Editor Feedback）

ホステッド・モードでエディタが起動していれば、モッドラインの状況がライブでフィードバックされます。すなわち、ロー（raw）、リザルト（result）、バリュー（value）のナンバー・ボックスには、モッドラインの状況がリアルタイムで表示されます。スタンドアローン・モードでは、このフィードバックが得られません。

ソース・リスト（Source List）

スタンドアローン・モードでは、ホステッド・モードの時とは違って、ソースとメッセージ・タイプのリストの全てをサポートしてはいません。スタンドアローン・モードでは、MIDI A～H とトップ、ボトム、トリガー・ラッチのソース、ほとんどのナブ・ソースがリストに含まれていません。

スタンドアローン・モードには、OSC、ガレージバンド、アフタータッチ、ポリ・アフタータッチ、Y インクリメント・セット、X インクリメント・セットのメッセージ・タイプは含まれません。

ソースとメッセージ・タイプの完全なリストは、それぞれソース、メッセージ、タイプの項を参照してください。

出力ポート

ホステッド・モードとスタンドアローン・モードの大きな違いのひとつは、使用する出力ポートです。SSCOM ポート 1 はスタンドアローン・モード（データが SoftStep から直接送られる）、SoftStep Share はホステッド・モード（データがエディタから送られる）でそれぞれ使用します。

⚠ 参考：SoftStep Share は、Mac OS 版のアドバンスド・エディタに組み込まれた仮想 MIDI ポートです。Windows のユーザーの方は、MIDI Yoke や LoopBe といった、好きなサードパーティ製 MIDI バスをインストールして使用する必要があります。詳細は SoftStep Share の項を参照ください。

アジャセント・キー・ロックアウト (Adjacent Key Lockout)

キー・セーフティ機能のアジャセント・キー・ロックアウトは、ホステッド・モードでのみ利用できます。

ディスプレイ・モード (Display Mode) の 1 ～ 128 の 0 ～ 127 の切り替え

ディスプレイ・モード設定は、スタンドアローン・モードでのみ利用できます。ホステッド・モードでは、モッドラインの気の利いた動作で同じ効果が得られます。

シーン・チェンジング (Scene Changing) の無効化

シーン・チェンジングのオン／オフは、スタンドアローン・モードでのみ選択できます。ホステッド・モードでは、セットリストでシーンを 1 個だけ使用することで同じ効果が得られます。

4.7 SoftStep のポート

SoftStep をコンピュータに接続すると、SSCOM ポート 1 と SSCOM ポート 2 の 2 つの仮装 MIDI “ポート”（または “バス”）が生成されます。これらは、接続した SoftStep と通信するための “ポータル” になります。これらのポートではコンピュータと SoftStep (MIDI Expander が接続されていればそれも含む) の間の双方向の通信が可能で、SoftStep を接続すれば、MIDI 機能を備えたどのアプリケーションからも認識できるはずです。

SoftStep のハードウェアとソフトウェアをマスターするには、それぞれのポートの性質と機能を理解することが必須です。

SSCOM ポート 1 と SSCOM ポート 2 の違い

SSCOM ポート 1 は、SoftStep 本体とデータのやり取りを行うのに使用します。

スタンドアローン・モードにおいて、アプリケーションは SoftStep から送信される MIDI データをこのポートから受信します。また、SoftStep の LED やディスプレイ、プリセットをコントロールするためのデータも、このポートから送信する必要があります。

SSCOM ポート 2 は、接続された MIDI Expander とデータをやり取りするのに使用します。SSCOM ポート 2 に送られた MIDI 信号は全て、Expander の MIDI OUT ポートからも出力されます。

ホステッド・モードにおける SSCOM ポート 1 の動作

ホステッド・モードの場合、SSCOM ポート 1 の動作はスタンドアローン・モードの時とは異なります。ホステッド・モードでは、SSCOM ポート 1 は SoftStep の生のセンサー・データをエディタに送信し、エディタがこのデータを正しい MIDI メッセージに変換して出力します。

△ 参考：SoftStep の生データは、一連の MIDI CC メッセージ——CC40 ～ 83（ナブ・パッドを含むキー 1 個あたり 4 個）——のように見えます。SoftStep をホステッド・モードで使用時に “奇妙な” CC メッセージが現れた場合には、SSCOM ポート 1 をオフにするか、あるいは使用するソフトウェアでこれらのメッセージをフィルターで除去する必要がある場合があります。そのための機能を持ったアプリケーション（Ableton Live や Traktor、Max/MSP など）もありますが、持たないアプリケーション（Logic や MainStage など）は全ての MIDI ポートの信号に常に反応してしまうので、MIDI マップを行うのが難しい場合があります。

SoftStep Share

SoftStep Share は、Mac OS 版のアドバンスト・エディタに組み込まれた仮想 MIDI ポートです。これはアプリケーション同士をつなぐ MIDI バスとして、エディタから他のアプリケーションに MIDI 信号を分配するのに使用します。

SoftStep Share は、ホステッド・モードでのみ使用できます（この場合にしか必要ありません）。オーディオや MIDI のアプリケーションは、（ホステッド・モード時には）このポートから信号を受信する必要があります。

SoftStep Share の使い方は簡単で、アドバンスト・エディタを起動し、モッドラインの出力ポートで “SoftStep Share” を選択するだけで利用可能になります。

Windows ユーザーの方へ

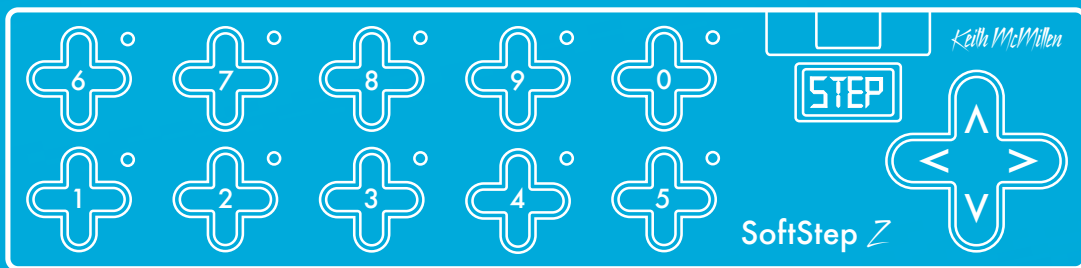
Windows 版のアドバンスト・エディタには、仮想 MIDI ポートが組み込まれていません。ユーザーの方が各自でサードパーティの MIDI バスをダウンロードしてインストールする必要があります。

KMI 社では、MIDI Yoke (<http://www.midiox.com/myoke.htm>)

または LoopBe (<http://www.nerds.de/en/loopbe1.html>) を推奨しています。インストールすると、“Out to MIDI Yoke:[1-8]” または “LoopBe”（インストールした MIDI バスによります）というオプションが、出力ポートのモッドラインのドロップダウン・メニュー内に現れます。

△参考：MIDI Yoke は古いアプリケーションのように見えますが、Windows 7 および 8 上でのインストールにも動作にも問題ありません。ただし、インストールの際には UAC（ユーザー・アカウント・コントロール）をオフにする必要があるかもしれません。

Appendix



5.0 付録

5.1 コントロール・ソース

以下は、利用できるソースと機能についての説明です：

プレッシャー・ライブ (Pressure Live)

キーを押す強さのデータを出力します。キーを離すと値が 0 に戻ります。

●範囲：0 ～ 127（プレッシャー無しからプレッシャー最大値まで）

X ライブ (X Live)

キーを押した時の左から右（X 軸）に向かう強さのデータを出力します。キーを離すと値が 63（センター）に戻ります。

●範囲：0 ～ 127（左から右）

Y ライブ (Y Live)

キーを押した時の下から上（Y 軸）に向かう強さのデータを出力します。キーを離すと値が 63（センター）に戻ります。

●範囲：0 ～ 127（下から上）

プレッシャー・ラッチ (Pressure Latch)

ラッチ動作時のプレッシャー・ライブのデータです。キーを離した時のデータが維持されます。

●範囲：0 ～ 127

X ラッチ (X Latch)

ラッチ動作時の X ライブ・ソースです。キーを離した時のデータが維持されます。

●範囲：0 ～ 127

Y ラッチ (Y Latch)

ラッチ動作時の Y ライブ・ソースです。キーを離した時のデータが維持されます。

●範囲：0 ～ 127

X インクリメント (X Increment)

水平スライダー／フェーダーに似た機能です。キーの右側を押すと値の増加、左側を押すと値の減少のデータが出力されます。

値が増減する速さは、設定 (Settings) 画面のキーズ (Keys) タブ内にある X Inc Speed オプションで変更できます。

●範囲：0 ～ 127

Y インクリメント (Y Increment)

垂直スライダー／フェーダーに似た機能です。キーの上側を押すと値の増加、下側を押すと値の減少のデータが出力されます。

値が増減する速さは、設定 (Settings) 画面のキーズ (Keys) タブ内にある Y Inc Speed オプションで変更できます。

●範囲：0 ～ 127

フット・オン (Foot On)

キーを押した時に 127、離れた時に 0 の値がそれぞれ出力されます。

フット・オフ (Foot Off)

フット・オンの逆で、キーを押した時に 0、離れた時に 127 の値がそれぞれ出力されます。フット・オンのゲインを -1、オフセットを 127 に設定しても同じ機能が得られますが、フット・オフの機能を使う方が話が早く、余計なことを考えずに済みます。

トップ (Top)

(ホステッド・モードのみ)

キーの上半分を押すと 127、離すと 0 の値がそれぞれ出力されます。

ボトム (Bottom)

(ホステッド・モードのみ)

キーの下半分を押すと 127、離すと 0 の値がそれぞれ出力されます。

ファースト・トリガー (Fast Trig)

(ホステッド・モードのみ)

キーを押すと、127 の値を出力した直後 (100ms 後) に 0 の値を出力します。

ダブル・トリガー (Dbl Trig)

キーを素早く 2 回押すと、127 の値を出力した直後 (100ms 後) に 0 の値を出力します。

ロング・トリガー (Long Trig)

キーを 1 秒間長押しすると、127 の値を出力した直後 (100ms 後) に 0 の値を出力します。

オフ・トリガー (Off Trig)

(ホステッド・モードのみ)

キーを離すと、127 の値を出力した直後 (100ms 後) に 0 の値を出力します。

ファースト・トリガー・ラッチ (Fast Trig Latch)

(ホステッド・モードのみ)

キーを押すとすぐに 127 の値を出力します。値は 0 に戻りません。

ダブル・トリガー・ラッチ (Dbl Trig Latch)

(ホステッド・モードのみ)

キーを素早く 2 回押すと 127 の値を出力します。値は 0 に戻りません。

ロング・トリガー・ラッチ (Long Trig Latch)

(ホステッド・モードのみ)

キーを 1 秒間長押しすると 127 の値を出力します。値は 0 に戻りません。

ペダル (Pedal)

エクスペリション・ペダルを接続すると、ペダルの設定値に応じた値を出力します。

●範囲：0 ～ 127

イニット (Init)

(スタンドアローン・モードのみ)

プリセットをロードした時に必ず 127 の値を出力します。特定のプリセットをロードした時に値を初期化したい場合に便利です。特定の値を送信したい場合は、モッドラインのミニマムとマキシマム (あるいはオフセット) のオプションで設定してください。

ナブ Y x 10 & キー (Nav Y x 10 & Key)

ナブ・パッドとの組み合わせで動作します。ナブ・パッドは必ずプログラム・チェンジ・モードか、またはナブ Y ディケイド (Nav Y Decade)・ソースを使用する設定にしておいてください。

ナブ・パッドのカウント値は “10 の位” すなわち 20、30、40 などの値を入力するために 10 倍されます。そして、(このソースが割り当てられた) キーを押した時に、そのキーの番号が値に加算されます。

●例：このソースをキー 2 に割り当てたとして、ナブ・パッドの上側を 3 回押します。すると、値の増加が 3 回分カウントされます。その後でキー 2 を踏むと、結果として $32 \{(3 \times 10) + 2\}$ という値になります。

キー 0 ～ 9 プレスト (Key 0 ～ 9 Pressed)

対応するキーを押すと 127 の値が出力されます。キー 4 プレストのソースを選ぶと、キー 4 を押すたびに 127 の値が出力されます。これは、他のキーの LED をオン／オフする時などに便利です。

アザー・キー・プレスト (Other Key Pressed)

このソースをあるキーに割り当てると、それとは別のキーを押した時に 127 の値が出力され、割り当てられたキーを押すと 0 の値が出力されます。たとえば、キー 2 に割り当てたとすると、キー 2 を押した時には 0、それ以外のキーを押した時には 127 の値がそれぞれ出力されます。

モッドライン 1 ～ 6 出力 (Modline 1 ～ 6 Output)

このソースを割り当てたモッドラインに他のモッドライン (1 ～ 6) から送られた信号の値を、最終的な値として出力します。より複雑な設定のためのデータ処理が必用な場合に重宝します。

MIDI A ～ H

(ホステッド・モードのみ)

設定画面で割り当てた MIDI 入力を受信した値をモッドラインに送ります。

OSC A ～ H

(ホステッド・モードのみ)

設定画面で割り当てた OSC 入力を受信した値をモッドラインに送ります。

ナブ・パッドのソース

以下は、ナブ・パッドのみで使えるソースです：

ナブ Y (Nav Y)

(ホステッド・モードのみ)

ナブ・パッドの上側を押すとナブ・パッドのカウンター値が増加し、下側を押すと減少します。

ナブ Y ディケイド (Nav Y Decade)

(ホステッド・モードのみ)

これは、ソースの形を取ったナブ・パッドのプログラム・チェンジ・モードで、ナブ Y x 10 & キーのソースとの組み合わせで使います。

ナブ・パッドの上下を押すと、ナブ・パッドのカウンター値がそれぞれ増減し、その値が 10 倍されます。これによって “10 の位” の値 (20、30、40、50 など) が得られます。次にナブ Y x 10 & キーを踏むと、そのキーの番号が 10 の位に加算されます。

10 の位の範囲はナブ・パッド・カウンターのミニマムとマキシマムのオプションで調節できます。

ナブ Y インクリメント／ディクリメント (Nav Y Inc-Dec)

Y インクリメントのナブ・パッド版で、ナブ・パッドの上側を押すと値が増加し、下側を押すと減少します。

●範囲：0 ～ 127

ナブ N フット・オン (Nav N Foot On)

(ホステッド・モードのみ)

フット・オン・ソースのナブ・パッド版で、ナブ・パッドの上側を押すと 127、離すと 0 の値がそれぞれ出力されます。

ナブ S フット・オン (Nav S Foot On)

(ホステッド・モードのみ)

フット・オン・ソースのナブ・パッド版で、ナブ・パッドの下側を押すと 127、離すと 0 の値がそれぞれ出力されます。

ナブ N フット・オフ (Nav N Foot Off)

(ホステッド・モードのみ)

フット・オフ・ソースのナブ・パッド版で、ナブ・パッドの上側を押すと 0、離すと 127 の値がそれぞれ出力されます。

ナブ S フット・オフ (Nav S Foot Off)

(ホステッド・モードのみ)

フット・オフ・ソースのナブ・パッド版で、ナブ・パッドの下側を押すと 0、離すと 127 の値がそれぞれ出力されます。

ナブ N トリガー

(ホステッド・モードのみ)

ナブ・パッドの上側を 500ms 長押しすると 127、その後 (100msec 後) 0 の値がそれぞれ出力されます。

ナブ N トリガー・ファースト (Nav N Trig Fast)

(ホステッド・モードのみ)

ファースト・トリガーと同じ機能で、ナブ・パッドの上側に割り当てます。

ナブ N トリガー・ダブル (Nav N Trig Dbl)

(ホステッド・モードのみ)

ダブル・トリガーと同じ機能で、ナブ・パッドの上側に割り当てます。

ナブ N トリガー・ロング (Nav N Trig Long)

(ホステッド・モードのみ)

ロング・トリガーと同じ機能で、ナブ・パッドの上側に割り当てます。

ナブ S トリガー

(ホステッド・モードのみ)

ナブ・パッドの下側を 500ms 長押しすると 127、その後 (100msec 後) 0 の値がそれぞれ出力されます。

ナブ S トリガー・ファースト (Nav N Trig Fast)

(ホステッド・モードのみ)

ファースト・トリガーと同じ機能で、ナブ・パッドの下側に割り当てます。

ナブ S トリガー・ダブル (Nav N Trig Dbl)

(ホステッド・モードのみ)

ダブル・トリガーと同じ機能で、ナブ・パッドの下側に割り当てます。

ナブ S トリガー・ロング (Nav N Trig Long)

(ホステッド・モードのみ)

ロング・トリガーと同じ機能で、ナブ・パッドの下側に割り当てます。

5.2 メッセージ・タイプ（アドバンスト・エディタ）

メッセージ・タイプでは、モッドラインが出力する MIDI メッセージを選択します（他にも 2、3 種類のメッセージ・タイプがありますが、MIDI がもっとも一般的です）。アドバンスト・エディタでは、以下のメッセージ・タイプが利用できます：

無し（None）

何のメッセージも出力されません。LED の点灯状況だけをコントロールする場合や、モッドライン 1～6 出力のソースを利用して処理を行う場合に便利です。

ノート・セット（Note Set）

特定のベロシティで MIDI ノートを出力します。値がプラスの場合はノート・オン、0 の場合はノート・オフのメッセージを出力します。ノート・セットを選択した場合には、以下のオプションが利用できます：

ノート（Note）

出力するノート・ナンバーを設定します。

ベロシティ（Vel）

出力するノート・オン・メッセージのベロシティ値を設定します。

チャンネル（Ch）

ノート・オン・メッセージを出力するチャンネルを設定します。

ノート・ライブ（Note Live）

特定のベロシティで MIDI ノートを出力します。ノート・ナンバーはモッドラインから入力される値によって決まります。ノート・ライブを選択した場合には、以下のオプションが利用できます：

ベロシティ（Vel）

出力するノート・オン・メッセージのベロシティ値を設定します。

チャンネル（Ch）

ノート・オン・メッセージを出力するチャンネルを設定します。

コントロール・チェンジ（CC）

特定の CC ナンバーを出力します。CC を選択すると、以下のオプションが利用できます：

CC#

出力する CC ナンバーを設定します。

チャンネル (Ch)

CC メッセージを出力するチャンネルを設定します。

バンク (Bank)

MIDI バンク・セレクトのメッセージを出力します。バンクを選択すると、以下のオプションが利用できます：

MSB

バンク・メッセージの MSB を設定します。

チャンネル (Ch)

バンク・セレクト・メッセージを送信する MIDI チャンネルを設定します。

△参考：バンク・セレクト・メッセージの解像度は、標準的な MIDI メッセージが 7 ビット (0 ~ 127) なのに対して、14 ビット (0 ~ 16383) です。これは MSB (Most Significant Bit：最上位ビット) と LSB (Least Significant Bit：最下位ビット) という、2 つの独立したメッセージを使用することで実現しています。SoftStep では、モッドラインを通過する値はバンク・メッセージの LSB を設定します——MSB は (MSB オプションで) 特定の値に固定しておかなければなりません。

プログラム (Program)

MIDI プログラム・チェンジ・メッセージを出力します。プログラムを選択すると、以下のオプションが利用できます：

チャンネル (Ch)

プログラム・チェンジ・メッセージを送信する MIDI チャンネルを設定します。

ピッチ・ベンド (Pitch Bend)

MIDI ピッチ・ベンド・メッセージを送信します。

●0=フル・ベンド・ダウン

●63=中点 (ベンド無し)

●127=フル・ベンド・アップ

ピッチ・ベンドを選択すると、以下のオプションが利用できます：

チャンネル (Ch)

ピッチ・ベンド・メッセージを送信する MIDI チャンネルを設定します。

MIDI マシン・コントロール (MMC)

MIDI マシン・コントロール・メッセージを送信します。MMC を選択すると、以下のオプションが利用できます：

ID

MMC メッセージのためのデバイス ID を設定します。MMC に対応したデバイスは、個々に唯一無二の ID ナンバーを割り当てる必要があります（ほとんどのデバイスやソフトウェアは、ID ナンバーの混乱が起きた時のために、ユーザー側で ID を設定できるようになっています）。

ファンクション（Function）

送信する MMC ファンクションやコマンドを設定します。SoftStep では、以下のものが利用できます：

- 停止（Stop）
- 再生（Play）
- 待機再生（Deferred Play）
- 早送り（Fast Forward）
- 巻き戻し（Rewind）
- パンチ・イン（Punch In）
- パンチ・アウト（Punch Out）
- ポーズ（Pause）

OSC

（ホステッド・モードのみ）

特定の接頭辞（Prefix）の付いた OSC メッセージを送信します。入力ポートや出力ポート、出力の IP アドレスといった OSC メッセージは、設定画面の OSC タブで設定できます。OSC を選択すると、以下のオプションが利用できます：

出力接頭辞（Output Prefix）

OSC メッセージと一緒に送信する接頭辞を設定します。接頭辞は通常、「/softstep」や「/controller」のように、「/」で始まります。接頭辞を指定しない場合は、初期値「/softstep」に戻ります。

アフタータッチ（Aftertouch）

（ホステッド・モードのみ）

MIDI アフタータッチ・メッセージを送信します。アフタータッチを選択すると、以下のオプションが利用できます。

チャンネル（Ch）

アフタータッチ・メッセージを送信する MIDI チャンネルを設定します。

ポリ・アフタータッチ（Poly Aftertouch）

（ホステッド・モードのみ）

MIDI ポリフォニック・アフタータッチ・メッセージを出力します。ポリ・アフタータッチを選択すると、以下のオプションが利用できます。

ノート (Note)

ポリ・アフタータッチ・メッセージと連携するノート・ナンバーを設定します。

チャンネル (Ch)

ポリ・アフタータッチ・メッセージを送信する MIDI チャンネルを設定します。

Y インクリメント設定 (Y Inc Set)

(ホステッド・モードのみ)

キーの Y インクリメントの値を設定します。モッドラインを通過する値は全て、使用中のキーの Y インクリメントの値を即座に設定します。他のキーやプリセットの切り替えによって Y インクリメントの値を初期化するのに便利です。

X インクリメント設定 (X Inc Set)

(ホステッド・モードのみ)

キーの X インクリメントの値を設定します。モッドラインを通過する値は全て、使用中のキーの X インクリメントの値を即座に設定します。他のキーやプリセットの切り替えによって X インクリメントの値を初期化するのに便利です。

5.3 テーブル

これらは全て SoftStep のテーブルで利用できます：

リニア (Linear)

1：1 のリニアなテーブルです。値は変更されずにそのまま通過します。

サイン (Sine)

入力された値にサイン・カーブを適用します。

コサイン (Cosine)

入力された値にコサイン・カーブを適用します。

指数 (Exponential)

指数関数テーブルです。低い値ほどゆっくりと変化し、高い値ほど速く変化します。

対数 (Logarithmic)

対数関数テーブルです。低い値ほど速く変化し、高い値ほどゆっくりと変化します。

トグル (Toggle)

モッドラインを通過する値が 0 からプラスの値（たとえば 0 から 127）に変化した時には常に、最大値（127）と最小値（0）を切り替えます。トグルのテーブルをフット・オンのソースで使用すれば、素晴らしいトグル・スイッチとして機能します！

カウンター・インクリメント (Counter Inc)

(ホステッド・モードのみ)

モッドラインを通過する値が 0 からプラスの値（たとえば 0 から 127）に変化した時に、キーのカウンターを増加させた値を出力します。

カウンター・デクリメント (Counter Dec)

(ホステッド・モードのみ)

モッドラインを通過する値が 0 からプラスの値（たとえば 0 から 127）に変化した時に、キーのカウンターを減少させた値を出力します。

カウンター・セット (Counter Set)

(ホステッド・モードのみ)

キーのカウンターを、モッドラインに入力された値に即座に設定して出力します。

5.4 初期化 (Inits)

プリセットをロードした時に、パラメーターやモッドラインを初期化 (Inits=Initialization) します。
初期化にはモード (Mode) と値 (Value) の 2 種類があります。

モード (Mode)

モードでは、初期化の動作を定義します。以下のオプションが利用できます。

無し (None)

初期値は出力しません。

1 回 (Once)

(ホステッド・モードのみ)

この設定を割り当てたプリセットが最初にロードされた時に初期値を出力します。もう一度このプリセットに切り替えた時には、初期値は出力されません。

これはセッションごとに有効になります。アドバンスト・エディタを終了してふたたび起動した時のみ、この「1 回 (Once)」がリセットされます。

常時 (Always)

この設定を割り当てたプリセットがロードされる時には常に初期値を出力します。

値 (Value)

初期化 (Init) がトリガーされた時に出力される値を設定します。この値は、初期化 (Init) が割り当てられたモッドラインを通じて出力されます。

5.5 ディスプレイ・モード (Display Mode)

ディスプレイ・モードは、SoftStep のディスプレイがキーと連携する時の動作を定義するのに使用します。

SoftStep のアドバンスト・エディタでは、以下のディスプレイ・モード・オプションが利用できます。

無し (None)

SoftStep のディスプレイは変化しません。無し (None) を選択したキーを踏むと、選択中のプリセットの名前が表示されます。

常時 (Always)

キーを押した時には常にそのキーの名前が表示されます。キーの接頭辞とパラメーターの値は、このモードでは使用されません。

1 回 (Once)

(ホステッド・モードのみ)

キーを最初に押すと、接頭辞とパラメーター値が即座に短時間だけ表示された後、そのキーの名前が表示されます。その後はキーを押すたびに接頭辞とパラメーター値が表示されます。

イニシャル／リターン (Initial/Return)

キーを押すと即座にキーの名前が表示され、そのすぐ後に接頭辞とパラメーター値が表示されます。

イミディエイト・パラメーター (Immed Param)

キーを押すと、常にそのキーの接頭辞とパラメーターが表示されます。

5.6 LED モード

LED モードでは、いつ点灯や消灯するかなど、SoftStep の LED の動作を定義します。アドバンスト・エディタでは、緑と赤の LED について以下のオプションが利用できます。

無し (None)

LED の状態に影響を及ぼしません。LED が点灯中ならそのまま点灯、消灯中ならそのまま消灯になります。

トゥルー (True)

モッドラインの値が 1 またはそれ以上の時に LED が点灯します。値が 0 に等しくなると消灯します。

フォルス (False)

モッドラインの値が 0 に等しい時に LED が点灯します。値が 1 またはそれ以上になると消灯します。

フラッシュ・トゥルー (Flash True)

モッドラインの値が 1 またはそれ以上の時に LED が点滅し続けます。値が 0 に等しくなると消灯します。

フラッシュ・フォルス (Flash False)

モッドラインの値が 0 に等しい時に LED が点滅し続けます。値が 1 またはそれ以上になると消灯します。

フラッシュ・ファスト・トゥルー (Flash Fast True)

モッドラインの値が 1 またはそれ以上の時に LED が速く点滅し続けます。値が 0 に等しくなると消灯します。

フラッシュ・ファスト・フォルス (Flash Fast False)

モッドラインの値が 0 に等しい時に LED が速く点滅し続けます。値が 1 またはそれ以上になると消灯します。

ブリンク・トゥルー (Blink True)

モッドラインの値が 1 またはそれ以上の時に LED が 1 回点滅します。値が 0 に等しい時には変化がありません。

ブリンクフォルス (Blink False)

モッドラインの値が 0 に等しい時に LED が 1 回点滅します。値が 1 またはそれ以上の時には変化がありません。

オフ (Off)

1 またはそれ以上の値を受信した時に LED が消灯します。

5.7 SoftStep の外部コントロール

SoftStep は、様々な MIDI ソフトウェアやハードウェアをコントロールできますが、USB または MIDI Expander 経由で「外部から」コントロールすることもできます。

5.7.1 SoftStep の LED をコントロールする

SoftStep の LED は、CC メッセージを使用して外部のソフトウェアやハードウェアからコントロールできます。番号の付いたキーのそれぞれには赤と緑に点灯する LED が 1 個ずつ対応しており、以下のメッセージに反応します：

赤 LED

CC20 ～ 29 がそれぞれ 0 ～ 9 のキーの赤 LED をコントロールします（1 つのキーに対して 1 つの CC）
CC には以下の値が不随しています：

- 0=LED オフ
- 1=LED オン
- 2=LED 高速点滅
- 3=LED 低速点滅

緑 LED

CC110 ～ 119 がそれぞれ 0 ～ 9 のキーの緑 LED をコントロールします（1 つのキーに対して 1 つの CC）

CC には以下の値が不随しています：

- 0=LED オフ
- 1=LED オン
- 2=LED 高速点滅
- 3=LED 低速点滅

△参考：MIDI 信号を USB 経由で送信する場合は、CC を SSCOM ポート 1 に送信する必要があります。

5.7.2 SoftStep のディスプレイをコントロールする

キーの LED ばかりでなく、SoftStep の 4 桁のディスプレイも、CC メッセージを使って外部のソフトウェアやハードウェアからコントロールできます。

ディスプレイの 4 桁の表示は、4 つの CC メッセージでコントロールできます。

CC50=1 桁目

CC51=2 桁目

CC52=3 桁目

CC53=4 桁目

それぞれの CC メッセージの値は、48 から 122 の間に設定する必要があります。これらの値は以下の表示に対応しています：

- 48 ～ 57=数字の 0 ～ 9
- 65 ～ 90=大文字の A ～ Z
- 97 ～ 122=小文字の A ～ Z
- 58 ～ 64 および 91 ～ 96=様々な記号と文字

たとえば、ディスプレイの 3 桁目に「3」と表示させる場合は、CC52 を 51 の値で送信します。

△参考：MIDI 信号を USB 経由で送信する場合は、CC を SSCOM ポート 1 に送信する必要があります。

5.7.3 プログラム・チェンジ信号でプリセットを変更する

スタンドアローン・モードでは、SoftStep のプリセットを外部のソフトウェアやハードウェアからプログラム・チェンジ・メッセージで切り替えることができます。SSCOM ポート 1 に送信された 1 から 16 までのプログラム・チェンジ・メッセージは、セットリスト内の対応したプリセットを選択します。たとえば、プログラム・チェンジ 7 を送信すると、セットリストの 7 番目のプリセットがロードされます。

5.7.4 MIDI Expander を使う

SoftStep の LED やディスプレイ、プリセットの選択を、接続した MIDI Expander 経由でコントロールすることができます。CC やプログラム・チェンジ・メッセージを Expander 経由で送信して SoftStep をコントロールする時には、メッセージを MIDI チャンネル 16 で送信する必要があります。

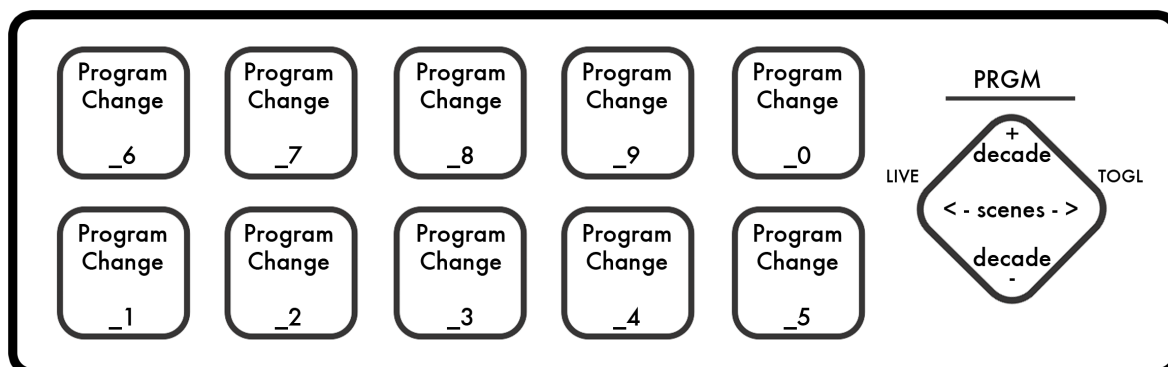
これ以外のチャンネルで送信したメッセージは全て無視され、通常通りに処理されます（「通常通り」の処理については、SSCOM ポート 2 の項を参照してください）。

5.8 ファクトリー・プリセット・ガイド（アドバンスト・エディタ）

全てのファクトリー・プリセットの出力は、USB 経由でも MIDI Expander 経由（接続されている場合）でも、MIDI チャンネル 1 に設定されています。

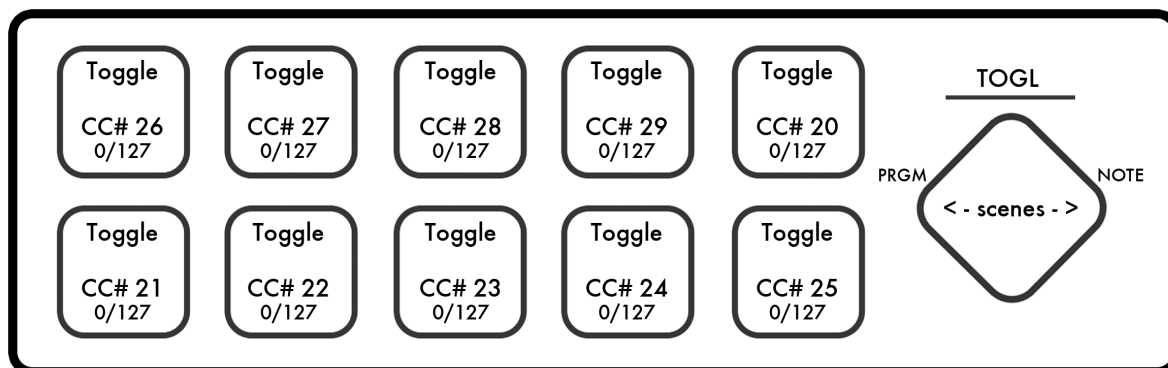
プログラム・チェンジ（PRGM）

それぞれのキーは、プログラム・チェンジ・メッセージを送信します。ナブ・パッドの上下を押すと値が「10 単位」で増減します。最後にそれぞれのキーを踏んで 1 の位を指定すると、プログラムメッセージが送信されます。これによって、0 ～ 127 の全てのプログラム・チェンジ・メッセージが送信できます。



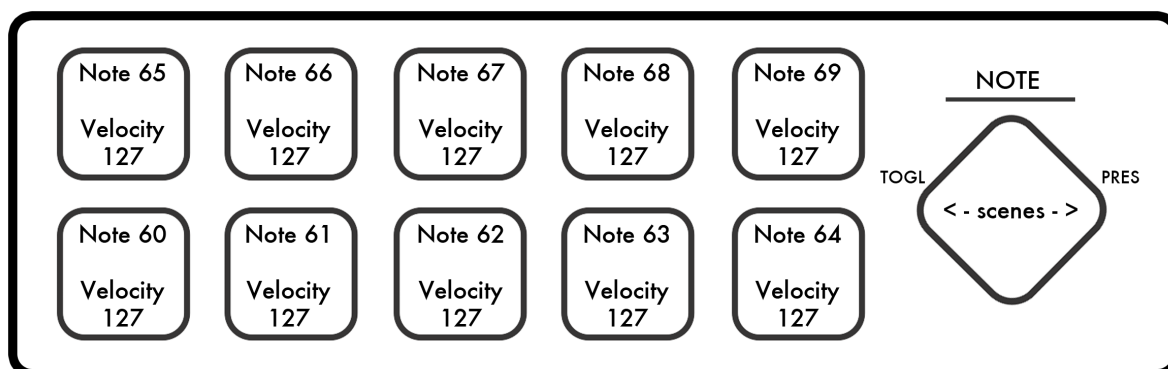
トグル（TOGL）

それぞれのキーで CC メッセージ（CC20 ～ 29）の切り替えができます。あるキーを踏むと、オンに切り替わり（値 127 が出力され）、同じキーをもう一度踏むとオフに切り替わり（値 0 が出力されます）。トグルの状態は、それぞれのキーの緑 LED で視覚的に確認できます。オンの時に点灯し、オフの時に消灯します。



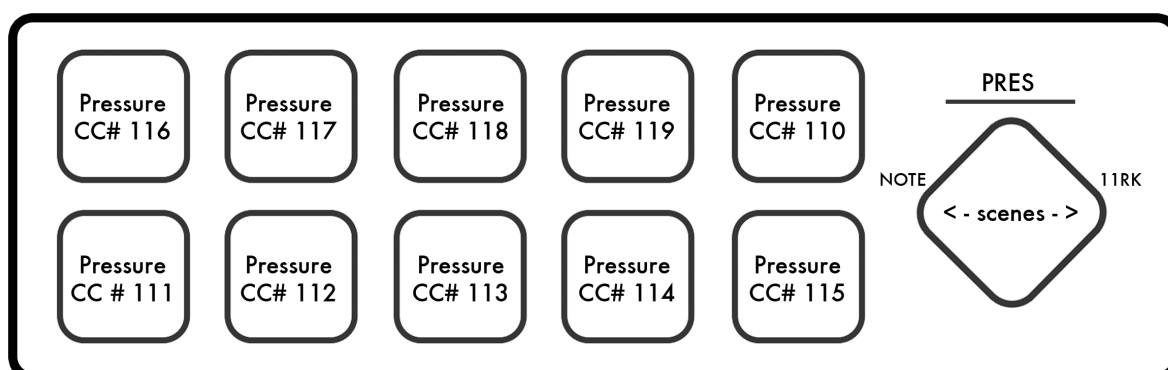
ノート (NOTE)

それぞれのキーが MIDI ノート・ナンバー (60 ～ 69) を送信します。あるキーを踏むとノート・オン、離すとノート・オフのメッセージが送信されます。ノート・オンの (キーを押した) 時にはそれぞれのキーの緑 LED が点灯し、ノート・オフの (キーを離した) 時には消灯します。



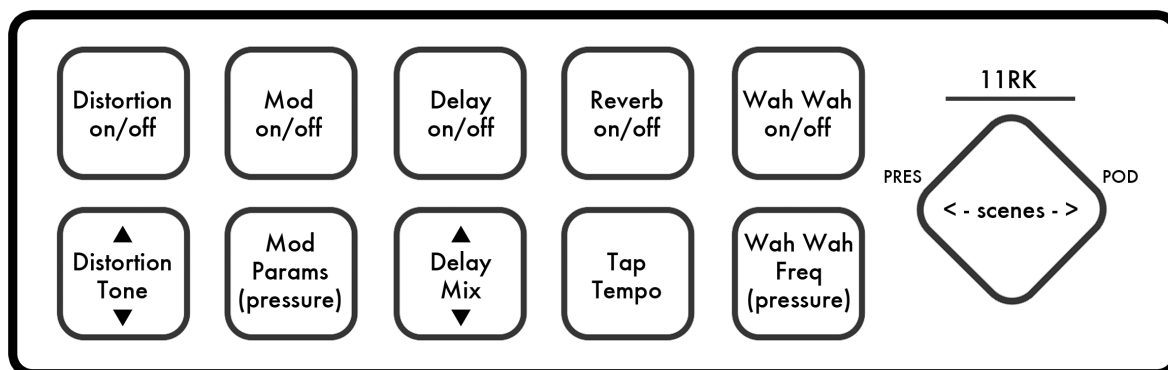
プレッシャー・ライブ (PRES)

それぞれのキーを押す強さを、CC メッセージ (110 ～ 119) として出力します。値はキーを強く押すほど大きく、弱く押すほど小さくなります。



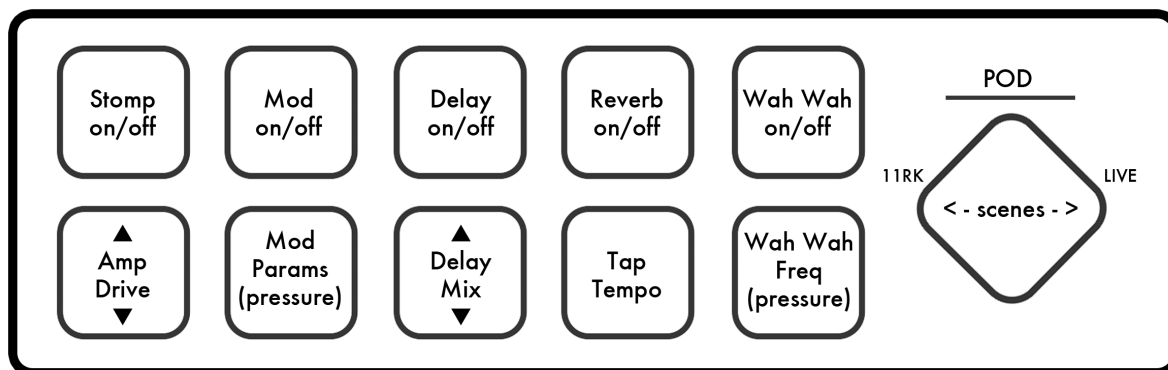
Eleven Rack コントロール (11RK)

Avid 社の Eleven Rack プロセッサーと組み合わせて使用します。Eleven Rack との接続には MIDI Expander が必要です。上段のキーはエフェクトのオン／オフ、下段のキーはエフェクトのパラメーターをそれぞれコントロールします。



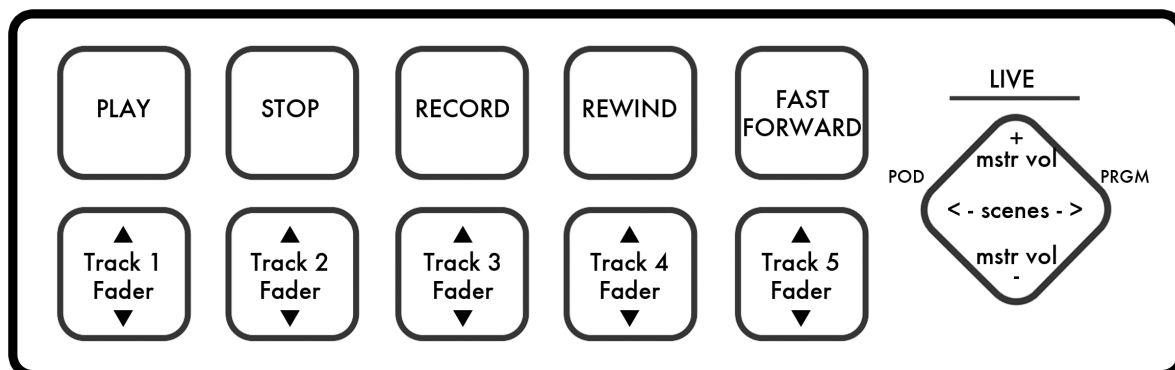
Line6 Pod コントロール (POD)

Pod を含む Line6 社製の多くのプロセッサーをコントロールします。Pod との接続には MIDI Expander が必要です。上段のキーはエフェクトのオン／オフ、下段のキーはエフェクトのパラメーターをそれぞれコントロールします。



Ableton Live コントロール (LIVE)

Ableton Live のために特別に作成したスクリプト (SoftStep 2 ソフトウェア・パッケージの「Extras」フォルダーに入っています) のためのプリセットです。上段のキーはトランスポート、下段のキーはトラックの音量をそれぞれコントロールします。ナブ・パッドの上下はマスター・ボリュームのフェーダーとして動作します。



5.9 MIDI ノートと音名の対照表

MIDI ノートは 0 ～ 127 の番号で表記しますが、実際の音楽で音名を A から G# までの文字で表記します（伝統的な西洋音楽の場合）。そのため、両者を変換する方法が必要ですが、MIDI ノート・ナンバーの命名法には複数の基準があって混乱を招く場合があります。

Keith McMillen Instrument 社では、C3=60 の基準に従ってノート・ナンバーを決めています。以下はノート・ナンバーと音名の対照表です。（対照表：横の列は「音名／ノート・ナンバー（C3=60）」）

Octave	Note Names / Numbers (C3=60)											
	C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
-2	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
-1	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
0	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
2	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
3	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71
4	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83
5	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
6	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107
7	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119
8	120	121	122	123	124	125	126	127	—	—	—	—

△参考：ソフトウェアやハードウェアによっては、C4=60（あるいは C4=50）を標準にしているものもあり、MIDI マッピングや SoftStep の設定を行う際に混乱を招く場合があります。全ての MIDI ノートがオクターブ違いの音名になる場合がありますが、MIDI の世界においては同じノート・ナンバーです・・・そこが肝腎なところです。

5.10 SoftStep バージョン 1.21 からの変更点

全般

「シーン (Scene)」が「プリセット (Preset)」に変更

従来はアドバンス・エディタで個々のキーの設定を「プリセット」として保存することが可能で、全てのキーの設定は「シーン」(「超プリセット」のようなもの)と呼んでいました。Ableton のクリップとシーン(単一のクリップとひとまとまりのクリップ)の関係のようなものです。しかし、バージョン 1.2 以降ではキーごとのプリセットが廃止されたので、複数のプリセットを意味する「シーン」という用語は必要無くなりました。

ベーシック・エディタ

ベーシック・エディタに関する変更点です。

イージー・エディタがベーシック・エディタに変更

名称の変更です！

ベーシック・エディタで複数のプリセットが使用可能

従来の SoftStep イージー・エディタでは 1 個のプリセットしか扱えませんでした。ベーシック・エディタでは 10 個のプリセットが扱えるようになりました。

ソース・オプションの変更

ベーシック・エディタで、MIDI ノートとプレッシャー CC、トグル CC、X/Y、Y インクリメント、プログラム・チェンジのいずれか 1 個のメッセージをそれぞれのキーに送信できるようになりました。

ソース・オプションの拡張

- MIDI ノートにトグルのオプションが割り当て可能に——最初に押すとノート・オン、次にオストノート・オフが送信されます。
- プレッシャーにスモーキングのオプションが追加
- トグルにローとハイの値が設定可能
- X/Y でラッチング (キーを離した時の値を維持) の選択と、X または Y の CC をオフにする (両方をオンにしておく必要がない場合) 設定の選択が可能
- プログラム・チェンジに加えてバンク・セレクト・メッセージも一緒に送信するオプションが選択可能

アドバンスト・エディタのファクトリー・プリセットが利用可能

ベーシック・エディタで、ベーシック・エディタ・プリセットの代わりにアドバンスト・エディタのファクトリー・プリセットが利用できるようになりました。ただし、利用できるのはベーシック・エディタで作成できないファクトリー・プリセットのみです。トグルやノート、プレッシャーといったファクトリー・プリセットはベーシック・エディタで簡単に作成できるので (しかも、これらはベーシック・エディタのファクトリー・プリセットとして利用可能なので)、利用できません。

アドバンスト・エディタ

アドバンスト・エディタに関する変更点です。

SoftStep エディタがアドバンスト・エディタに変更

名称の変更です

フット・オン／オフ、トップ、ボトム、トリガーは、1 ではなく 127 を送信

フット・オン、フット・オフ、トップ、ボトムなど、オンにした時に 1 の値を出力していたトリガー・ソースは全て変更の対象になります。MIDI の世界では、出力する値が 1 よりも 127 のほうがはるかに一般的になったので、トグルのテーブルは 127 と 0 の値を切り替えるようにしました。

従来のトグルの動作が必要な場合は、モッドラインのマキシマム（Max）のオプションを 1 に、すなわち 127 の値を 1 に制限するように設定してください。

トグル 127 のテーブルを削除

トグル 127 の動作は通常のトグルのテーブルが引き継いだので、トグル 127 のテーブルは必要無くなりました。

5.11 トラブルシューティング

ここでは、SoftStep 使用中に生じる可能性のある問題の解決策をいくつかで紹介します。

Windows でのファームウェア・アップデート時の問題

Windows でエディタからファームウェアをアップデートしようとしてトラブルが起きる可能性があります。その場合は、アップデートを自動的に行う FirmwareUpdater.exe という別のユーティリティがあります。使用法は以下の通りです。

1. 全てのオーディオ／MIDI アプリケーションを終了します。
2. SoftStep をコンピューターに接続します。
3. Windows の Explorer ウィンドウで、ベーシック・エディタまたはアドバンスド・エディタのフォルダーを探します。ユーティリティはどちらのフォルダーにも入っています。
4. FirmwareUpdater.exe をダブルクリックします。
5. ファームウェアのアップデートが終了するのを待ちます。しばらく時間がかかるので、焦らずにお待ちください。ファームウェアの送信中は、アップデートのユーティリティがその旨を表示します。SoftStep の表示は消えているはずですが。
6. アップデートが終了したら、ファームウェアアップデーターの画面を閉じます。

ファームウェアのアップデートが成功したら、いずれかのエディタを開いて作業を再開してください。SoftStep は正常に動作するはずです。

接続の問題

SoftStep とコンピューターの接続がうまく行かない場合、問題解決にはいくつかの方法が考えられます。SoftStep の正しい USB ポートを使用しているか確認

SoftStep 本体には、メインの USB ポート（「USB」と表示された USB B 端子と Expander 用のポート（「Expand」と表示されたミニ USB 端子）の 2 個の USB 端子があります。コンピューターとの接続には常にメインの USB ポートを使用してください。Expander 用のポートは KMI MIDI Expander 専用なので、コンピューターに接続しても動作しません。

別の USB ケーブルを試してみる

トラブルの時、最初に試すべき（そして、多くの場合見逃される）ことは、別の USB ケーブル、できれば正常に使用できることがわかっているものを試してみることです。ケーブルに問題があると、動作がおかしくなったり、全く動作しなくなったりします。

別の USB ポートに接続してみる

ケーブルをコンピューターの別の USB ポートに差し替えると正常に接続できるかもしれません。非常に稀なケースですが、SoftStep と相性の悪い USB ポートがあります。

外部電源の無い USB ハブは使用しない

外部電源を使用しない USB ハブが SoftStep に十分な電力を供給できずに、接続の問題が発生することがあります。外部電源を使用しない USB ハブは、コンピューターの USB ポートから供給される電源をハブのそれぞれのポートで分け合うので、SoftStep をコンピューターの USB ポートに直接接続した時よりも電力供給量が少なくなってしまうです。

どうしても USB ハブを使う必要がある場合には、必ず外部電源を接続するハブを使用してください。

USB ハブを使わずに試してみる

USB ハブを介した接続で問題が発生した場合は、ハブを外してコンピューターの USB ポートに直接接続してみてください。これで正常に接続できるようになるかもしれません。

OS 固有のバグに注意

問題の原因が SoftStep にある可能性があるのも確かですが、実際には OS 自体に問題がある場合もあります。Mac OS の CoreMIDI バグや、Windows のクラス・コンプライアント機器の制約といった問題にも、常に注意を払うようにしてください。

別のコンピューターに接続する

SoftStep がコンピューターと全く通信しない場合は、別のコンピューターを使用してみてください。別のコンピューターで正常に動作することを確認したら、ふたたび元のコンピューターで試してみてください。これで接続の問題が解決した例もあります。

Mac OS の CoreMIDI バグ

Mac OS の CoreMIDI には興味深い（潜在的な）バグがあり、これが SoftStep だけでなく、クラス・コンプライアントの MIDI 機器全般の接続問題の原因になる場合があります。

コンピューターの電源を入れて SoftStep（あるいはその他のクラス・コンプライアントの MIDI 機器）を最初に接続した時に、コンピューターと正常に接続できても、MIDI 機器のリストが更新されない場合があります。

そのため、すでに起動しているオーディオや MIDI のアプリケーション（SoftStep のエディタや Ableton、Logic など）が、コンピューターとは正常に接続できているはずの SoftStep を認識しないのです。

MIDI 機器のリストを更新するには、コントローラーをいったんポートから外して接続しなおすか、または手動で Audio MIDI Setup アプリケーション（/Applications/Utilities ディレクトリ内にあります）の再スキャンを行うしかありません。

興味深いのは、コントローラーをそのコンピューター自体に初めて接続した時には、この現象が起きないということです。どうやら、MIDI 機器が Audio MIDI Setup 内に作成された時にはリストが更新されるのに、Audio MIDI Setup 内のリスト内にすでに存在する機器については更新されないようです。

この動作が意図的で想定されているのかどうかはともかく、注意する必要があります。

私たちはこの現象を、Mac OS の 10.6 から 10.9 にかけてのバージョンで確認しています。

コンピューターを起動した後、何かのアプリケーションを起動する前に必ず SoftStep を接続しておくことです。

では、このバグに遭遇した場合にはどうすれば良いでしょうか？ その場合にも、いくつかの解決策があります：

- SoftStep の接続をいったん外して、ふたたび接続する。
- Audio MIDI Setup を起動して、MIDI 画面の「Rescan MIDI」ボタンをクリックする。
- 別のオーディオや MIDI のアプリケーションを起動する。

上の 3 つはいずれも MIDI 機器リストを更新するための方法です。これで「アプリケーション内」での接続が成立するはずですが。

Windows のクラス・コンプライアント機器の制約

Windows XP や Vista、Windows 7、Windows 8 では、クラス・コンプライアントの MIDI 機器を複数のアプリケーションに接続することができません。SoftStep もクラス・コンプライアントの MIDI 機器なので、この制約に引っかかります。

そのため、複数のオーディオ／MIDI アプリケーション（たとえばアドバンスト・エディタと Ableton Live）を同時に起動していると、どちらか一方しか SoftStep と接続できなくなります。ですから、SoftStep をエディットする際には、他のオーディオ・アプリケーションを絶対に起動しないようにしてください。起動してしまうと接続の問題が発生して、頭が混乱したりいらいらさせられたりします。

これは KMI 製品だけの問題ではありません。クラス・コンプライアントの MIDI 機器の全てに当てはまります。

5.12 FAQ

How do I contact KMI support for questions about my SoftStep?

Support can be reached by submitting a support ticket at the following website: <http://www.keithmcmillen.com/support>

Before submitting a ticket it is definitely a good idea to read through the rest of the FAQ section to make sure your question hasn't already been answered.

What information should I include in a support request/question?

Providing helpful, useful information about any issues is an extremely important part of getting a helpful, useful response back. When submitting a support ticket, it is wise to include the following information:

- Your computer's operating system.
- The software/hardware being used with your SoftStep.
- Are you running in Hosted mode or Standalone mode?
- A description of what you're trying to accomplish. Your goal.
- A description of the problem you're experiencing.
- Any steps you have taken to fix the problem (you have tried, right?).
- Any special/extra information about your setup – e.g. using a USB hub.


Failing to include the above will generally result in an email asking you to provide the above – delaying the actual solution to the issue you're experiencing.

Will installing the SoftStep 2 software overwrite the SoftStep 1 software?

No. Installing SoftStep 2 will not overwrite the old editor. The act of "installing" is really just copying a folder onto your hard drive. The SoftStep 1.21 and SoftStep 2 folders are named differently and do not affect one another – they exist separately and both can still be used. You'll have to change firmwares when switching back and forth, but it will still work (note that SoftStep 2 hardware won't work with the old 1.21 editor).

Can I use two SoftSteps at the same time?

Hosted mode is limited to a single SoftStep at a time, but a *lot* of SoftSteps can be used simultaneously if they're running in Standalone mode. The USB spec states "up to 127 devices, including hub devices if present, may be connected to a single host controller". As a class-compliant USB MIDI device, this applies to the SoftStep.

 **Note:** Only a single SoftStep can be edited at a time using the editors.

How do I update/reload my firmware?

There are a few of ways firmware can be updated on a SoftStep: automatically by the Basic and Advanced editors, manually with the editors, or manually without the use of the editors.

Automatically

If a SoftStep is connected to an editor with a differing firmware version (e.g. you just downloaded a new editor update and fired it up), the editor should automatically prompt you to update the firmware. Just click the UPDATE button to initiate the firmware installation.

Manually (with Advanced/Basic Editor)

The SoftStep Basic and Advanced editors can be used to manually initiate a firmware update/reinstall – just do the following:

1. Connect the SoftStep to a computer.
2. Open either the Basic Editor or Advanced Editor.
3. Go up to the **Hardware** menu and select “Update/Reload Firmware”. This option will only be selectable if a SoftStep has successfully connected to the editor.
4. In the prompt that appears, click the UPDATE button – this will initiate the firmware update process.
5. Wait for the firmware update to complete – a progress bar will show how much of the update has completed.
6. If you have any custom presets, resend them to the SoftStep – reinstalling or updating firmware will revert all presets to their factory state.

Manually (without Advanced/Basic Editor)

Typically the SoftStep editors will do just fine updating firmware on your board, but in some cases it may be necessary to manually update the firmware (like if the controller is not connecting to the editor).

The SoftStep firmware can be loaded/installed manually using any application capable of sending SysEx files to connected MIDI devices. We recommend SysEx Librarian for Mac (<http://www.snoize.com/SysExLibrarian/>), and SysEx Box for Windows (<http://miostools.midibox.org/>) – though there are certainly other capable third-party options available.

To update your firmware...

Mac

1. If you have not already, download and install SysEx Librarian from <http://www.snoize.com/SysExLibrarian/>
2. Download or locate the firmware file you would like to install. Zips of the current version and past versions can be downloaded here: http://files.keithmcmillen.com/downloads/softstep/sysex_files/
3. Plug in your SoftStep and open SysEx Librarian.

4. Click "Add..." in the lower-left corner of the screen. When the browser window opens, navigate to the firmware file (generally named to the effect of "Softstep-88.syx") then click "Open".
5. Select **Port 1** (for "SSCOM Port 1") from the drop down menu labeled "Destination".
6. Select the firmware file in SysEx Librarian's main window – it should highlight blue.
7. Click the "Play" button in the top-left corner of SysEx Librarian to begin the firmware installation. A progress bar will appear indicating how far along the update process is. The SoftStep's display will go blank and look non-responsive while the update is taking place – this is okay and to be expected.
8. Once done, wait for the SoftStep to boot back up. This may take a few seconds, so please be patient.

Windows

1. If you have not already, download and install SysEx Box from <http://miostools.midibox.org/>
2. Download or locate the firmware file you would like to install. Zips of the current version and past versions can be downloaded here: http://files.keithmcmillen.com/downloads/softstep/sysex_files/
3. Make sure all audio/MIDI applications are closed.
4. Plug in your SoftStep and open SysEx Box.
5. Select SSCOM Port 1 in the "MIDI IN Port" and "MIDI OUT Port" drop-down menus. "SSCOM Port 1" may show up as "USB Audio Device (1)" on Windows XP.
6. Click "Open Sysex File". When the browser window opens, navigate to the firmware file you want to send to the SoftStep, then click "Open".
7. Click the "Send Sysex" button. The firmware update should begin. The SoftStep's display will go blank and look non-responsive while the update is taking place – this is okay and to be expected.
8. Once done, wait for the SoftStep to boot back up. This may take a few seconds, so please be patient.

Does reloading or updating firmware reset my presets?

Yes. A firmware update or reinstall will reset the SoftStep's onboard presets to factory settings. If you have any custom presets you will need to resend them to the SoftStep using one of the editors.

Is there a way to reset the SoftStep back to factory settings?

Yes, it is possible to reset both the SoftStep to factory settings. All that needs to be done is a firmware reinstall (we just went over this in the [previous question](#)) – this will revert everything to factory settings and presets. Instructions on how to reinstall firmware can be found [here](#).

How do I find out what firmware is installed on my SoftStep? Also, what firmware will the editor install?

Finding out what firmware version is installed on the SoftStep is simple. When a SoftStep is powered up it will briefly display the firmware version that is currently installed on it. Just plug in the SoftStep and look at the first displayed number – that's the firmware version. This information is also available via the SoftStep editors.

To find out what firmware version is included in the Basic or Advanced editors, do the following:

1. Open the editor you're curious about.
2. **Mac:** Go up to the "SoftStep Advanced/Basic Editor" option in the menu bar and select "About SoftStep Advanced/Basic Editor". **Windows:** Go up to the Help menu in the menu bar and select "About SoftStep Advanced/Basic Editor". The main window will now display information about the editor and connected SoftStep (if one is connected).

The **Expected FW** field lists the firmware version included with the editor – this is what will be installed if a firmware update is initiated. The **Found FW** field lists the firmware version currently installed on the connected SoftStep. The **Editor Version** lists the version number of the editor itself (not firmware related).

Can I save Hosted mode presets to Standalone mode?

Not directly, but there is a simple method to get a Hosted mode preset into Standalone mode (and vice versa). Just do the following:

1. In Hosted mode, select the preset you want to transfer.
2. Copy the preset via the **Edit menu** or keyboard shortcut.
3. Switch over to Standalone mode .
4. Paste the preset via the Edit menu or keyboard shortcut.
5. Click the "SAVE AS" button and give the preset a name.

Now your Hosted mode preset will be in Standalone mode. All of the output ports should automatically change to the correct device (e.g. if Hosted mode was using SoftStep Share it will now use SSCOM Port 1 in Standalone mode).

The reverse (going from Standalone mode to Hosted mode) can be done as well, just switch the words "Hosted" and "Standalone" in the above instructions.

Can I import my old presets from version 1.21?

Yes. The Advanced Editor allows for importing presets from the previous editor, 1.21. To import old presets to the new editor, do the following:

1. Open up the Advanced Editor.
2. If you want to import Hosted mode presets, skip this step. If you would like to import Standalone mode presets, switch over to Standalone mode by clicking the Hosted/Standalone switch.

3. Go up to the **File** menu in the menu bar and select "Import Hosted/Standalone Presets from V1.21" (it will say either "Hosted" or "Standalone" depending on which mode you're currently in).
4. When the file browser appears, navigate to and select the old SoftStep editor's "Presets" folder (not the contents of the folder, just the Presets folder itself), then click Choose/OK – the presets will be inserted at the end of the current preset list.

The Basic Editor does not provide this same functionality.

Presets created within the SoftStep 2.0+ editors should remain backwards compatible – so you can simply use the **Export Preset** and **Import Preset** options.

Can I rip presets from a SoftStep into the editor?

No, the SoftStep does not support ripping presets from the board onto a computer. This is why it is very important to always back up your presets if you do not want to lose them – they cannot be retrieved from the SoftStep itself.

If you want to rip presets in order to transfer them over to another computer, you should instead use the Export Preset option in the File menu of either **Basic Editor** or **Advanced Editor** – then import them on the other computer using the Import Preset option (also in the File menu).

Will my SoftStep 1 work with the SoftStep 2.0 editors?

Yes, SoftStep 1 hardware will work just fine with the SoftStep 2.0 editors. There are some options that are exclusive to SoftStep 2 hardware, but the editor can detect what version is connected and adjust accordingly.

What is the difference between SoftStep 1 and 2 hardware?

The SoftStep 2 hardware incorporates a number of changes, including:

- New cruciform key shape – including the Nav Pad
- Raised back row of keys for easier access
- Keys use LEDs for lighting, not EL wire
- Faster internal processor
- State recall in Standalone mode

Other than the above, each version should act exactly the same. The devices even show up as the same name ("SSCOM") so any old projects/sessions/setups made with SoftStep 1 should work with SoftStep 2 (assuming they're using the same preset).

I have both a SoftStep 1 and 2 – do I need to do anything special?

Nope. Both the SoftStep 1 and SoftStep 2 hardware are completely compatible with the editors. Aside from the differences listed in the previous question they should behave the same. Just note that only one SoftStep can be edited at a time using the editors.

Can I copy/paste keys?

Yes. While the copy/paste buttons of old have been removed from the key boxes, copying and pasting keys is still possible in the Advanced Editor.

1. In the main window, click anywhere on a key's background (anywhere that is *not* the "open modulation window" button or the "key name" box) – this selects a key for copying/pasting.
2. Go up to the **Edit** menu in the menu bar and select "Copy Key" to copy the selected key – select "Paste Key" to paste to the selected key. Alternatively, keyboard ninjas can just press [Command+C] ([Ctrl+C] on Windows) to copy, and [Command+V] ([Ctrl+V] on Windows) to paste.

Can I control the SoftStep LEDs/Display from an external source?

Yes. The SoftStep LEDs and display can definitely be controlled from an external source. Please see the [External Control of SoftStep](#) section for more detailed information.

Why does my SoftStep make a humming/buzzing sound? Can I make it stop?

SoftStep 1 hardware uses electroluminescent wire (EL wire) to light the keys – this is the cause of the buzzing sound. The sound should not be present in your audio chain, just physically coming from the SoftStep. The only way to make this completely go away is by turning off the backlighting. This can be done in the Settings section of both the Basic and Advanced editors.

SoftStep 2 hardware should not hum or buzz at all.

Can I use a USB hub with the MIDI Expander?

No. Plugging a USB hub into the EXPAND port on a MIDI Expander will not work, and will not allow for multiple SoftSteps to be used with a single Expander. The SoftStep must be plugged directly into a MIDI Expander for it to work properly.

Will the MIDI Expander work with non-KMI controllers?

No. Only KMI USB MIDI controllers will work with the Expander's EXPAND port. Plugging another USB MIDI device in will result in no MIDI being output.

What is a modline?

A **modline** (short for "modulation line") is a collection of settable options/parameters in the Advanced Editor that define how a SoftStep key should act. They let you select the type of data, how the data should be processed, and how to output the data.

This is where all the action happens. She who controls the modlines, controls the SoftStep universe.

Will SoftStep work with [insert software/hardware here]?

If the software or hardware in question can receive MIDI messages, it will work with the SoftStep. Note that most hardware will require a MIDI Expander in order to connect via MIDI cables.

I have a synth/pedal/amp/rack/etc. with a USB port on it. Can I just plug the SoftStep directly into it?

It depends.

In order for the SoftStep's USB connection to work properly, it *must* be connected to a device that can act as a USB "host". Host devices almost always have a USB A connector on them (the more rectangular-shaped connector, like the ones on a computer). A non-host device, or "slave", generally has a USB B connector (the more square-shaped one, like on the SoftStep).

So, typically, if a device has a USB A connector on it there is a good chance the SoftStep will work with it when directly connected via USB. If a device has a USB B connector on it that generally means it won't work.

My SoftStep won't connect to the editor but it shows up in [insert application here]. What do I do?

If the SoftStep is not connecting to the editor but is showing up in other applications, there are a few things to try out.

1. Try unplugging the SoftStep and plugging it back in. On Mac OS there can be some connectivity problems due to a **potential bug in CoreMIDI**. This can also help out on Windows machines as well.
2. If you plugged the SoftStep in after opening the editor, try it the other way around. Connect the SoftStep, then open the editor. If you're already doing that, try it the other way. The order of operations can affect the results.
3. Try restarting the computer. It's amazing how many infuriating tech headaches can magically disappear with a computer restart.
4. If you're on Windows, make sure all other audio/MIDI applications are closed before opening the editor. See **this question** for more information on why this works.
5. As a last resort, try **manually reinstalling the firmware** on your SoftStep. This is essentially a factory "reset".
6. If none of the above options solves the problem, **contact KMI tech support**.

My expression pedal isn't working, what do I do?

First, you should check and make sure the proper connector is being used. Expression pedals use TRS (tip, ring, sleeve – or "stereo") connections – one for ground, one for +5V power (voltage may vary), and one for the actual pedal signal. The SoftStep's expression pedal input jack requires a 3.5mm (1/8") TRS plug. Most expression pedals come with 1/4" TRS plugs, so

we provide a 1/4" to 3.5mm TRS adapter with the SoftStep package. Use that. If you need a replacement, just make sure it's a TRS (stereo) adapter, not a TS (mono) adapter.

Second, you should check and make sure you're actually using an expression pedal. It can be tough because while the term "expression pedal" does have established standards, they're not always followed. Some companies say "expression pedal" when it's actually a "volume pedal" (there is a difference) – some do the opposite and call expression pedals volume pedals. Sometimes the potentiometer (often shortened to "pot") inside has a different resistance which can lead to different behavior between pedals. Some have a different "taper" (or "curve") resulting in different values across the pedal's travel. At KMI we use Roland EV-5 expression pedals without issue.

Third, check to make sure that your expression pedal operates on the correct voltage. All KMI gear operates from 0 to +5 volts. If your expression pedal goes beyond that there will be a lot of pedal travel that appears to do nothing.

⚠ Note: Volume pedals **do not** work with the SoftStep or any KMI controller with expression pedal input – at least, not without some modifications... With some basic soldering skills a volume pedal can be modified into an expression pedal. There are also some workarounds: <http://www.strymon.net/2011/10/10/strymon-tech-corner-3-volume-pedal-as-an-expression-pedal/> Also note that most volume pedals use logarithmic tapered pots as opposed to linear pots – this will have an effect on the curve/response of the pedal.

Does MIDI sent to the Expander's input get passed out the MIDI Out? Like a MIDI Thru?

No, the MIDI Expander's input does not behave like a MIDI Thru (pass the input out the output). The Expander's MIDI input is exclusively for getting MIDI into a connected computer (like a MIDI interface) or for **external control** of the SoftStep.

MIDI notes are always an octave off in [insert software here]. Is something wrong?

Nope.

There are actually multiple MIDI note number to note name conventions – different companies follow different standards. KMI follows the C3=60 paradigm (as does Ableton, Logic, MainStage, and more), while other companies follow the C4=60 paradigm (Native Instruments and others). It's even possible to run into a C5=60 standard, but that is much more rare.

If all MIDI notes appear to be an octave off, it simply means there are two different note naming standards involved. It's only the note *number* that matters – the *name* is irrelevant.

SoftStep only shows up as "USB Audio Device" when connected. Is something wrong?

Nope, nothing is wrong – you're just using Windows XP. Windows XP lists any class-compliant USB MIDI controller as "USB Audio Device", rather than the actual port name. The correct port name should be displayed on Windows 7 and 8, as well as all versions of Mac OS.

If you would rather it show up as something else, it is possible to change the displayed port name. Instructions on how to do this can be found at this link: <https://forum.ableton.com/viewtopic.php?f=4&t=176816>

I see there is a new update. Should I update right now? The day before my show?

No.

When there's a new update available it can be very tempting to get it and update as soon as you possibly can. While there's nothing wrong with this urge, if you happen to have a show coming up anytime soon (or today), it is generally advisable to hold off on updating until *after* your show has passed – or at least keep the old versions so you can go back if the need arises.

While we test everything to the best of our ability, there's no telling what bugs may be introduced to your setup – the preset you're using may have changed in a subtle way that you don't notice; there could be a nasty bug that didn't get noticed because it only appears in very special circumstances; the new firmware may not like one of your other devices; or it may respond to MIDI in a slightly different, perhaps undesirable, way. Even fixing a bug with an update can cause problems if you've already grown accustomed to the "buggy" behavior and developed the muscle memory around it.

Always, always give yourself time to test things out before changing your performance setup. Always. You will be much less stressed if you know what to expect from your gear and software. This is an extremely useful suggestion for pretty much anything performance-related, not just the SoftStep.

5.13 Safety Precautions



Medical Devices

SoftStep may emit electromagnetic fields. These electromagnetic fields may interfere with pacemakers or other medical devices. If you wear a pacemaker, maintain at least 6 inches (approximately 15cm) of separation between your pacemaker and SoftStep. If you suspect SoftStep is interfering with your pacemaker or any other medical device, stop using SoftStep and consult your physician for information specific to your medical device.

Medical Conditions

If you have any medical condition that you believe could be affected by SoftStep (for example, seizures, blackouts, eyestrain, or headaches), consult with your physician prior to using SoftStep.

Explosive Atmospheres

Do not use SoftStep in any area with a potentially explosive atmosphere, such as a fueling area, or in areas where the air contains chemicals or particles (such as grain, dust, or metal powders). Obey all signs and instructions.

Repetitive Motion

When you perform repetitive activities such as playing the SoftStep keys, you may experience occasional discomfort in your hands, arms, wrists, shoulders, neck, or other parts of your body. If you experience discomfort, stop using SoftStep and consult a physician.

High-Consequence Activities

SoftStep is not intended for use where the failure of the device could lead to death, personal injury, or severe environmental damage.

Choking Hazard

Some SoftStep accessories may present a choking hazard to small children. Keep these accessories away from small children.